学生の確保の見通し等を記載した書類

１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

①入学定員設定の考え方

グローバル・コミュニケーション学群の入学定員を250人とした。

これは，入学定員250人を確保する見通しの根拠として、第三者機関によるアンケート調査等を実施した結果により判断したものである。詳細は後述するが，受験対象者となる高校２年生に対してのアンケート調査において，「受験したい」と回答した365人のうち，受験し，合格した場合に「進学したい」と強い進学意欲を示した回答は287人であり，本アンケート調査において入学定員250人を上回る結果を得たことから，学生を確保することは可能であると判断した。

本学群には，「英語特別専修」「中国語特別専修」「日本語特別専修」「グローバル教養専修」という４つの専修を設けている。しかし，各専修に定員は設けていない。これは，学生が学修を進める過程において，入学後にどの外国語を中心に専ら学修していくかに重きを置くためである。故に，出願段階でいずれかの専修を選択させることはせず，どの外国語を専ら学修していくのかは入学後に学生自身が選択する。自ら選択した外国語の卒業要件を満たすよう専ら学修した結果として，それぞれの専修で卒業するという形を採る。英語を専ら学修した場合は「英語特別専修」として，中国語を専ら学修した場合は「中国語特別専修」として，日本語を専ら学修した場合は「日本語特別専修」として卒業する。なお，「グローバル教養専修」については，言語を越えた学修や２言語の学修を目指す学生の要望等に応えることを可能とする専修としている。

なお，既設の４学群（リベラルアーツ学群，芸術文化学群，ビジネスマネジメント学群，健康福祉学群）と共用する校地については，現在 110,118.43 ㎡を有し，運動場についても 69,048.20 ㎡を有しており，大学設置基準上の条件を満たしていること，校舎等施設についても既設の４学群と共用する計画であるが，講義室 140 室，演習室 33 室，実験実習室 58 室，情報処理学習施設 23 室，語学学習施設 13 室をすでに整備している。教室の割り当てを適切に行うことで，定員に応じた教室数を確保することが可能となっていること等からも，ハード面における教育環境は十分に整備されている。ソフト面においては，本学群の開設に向けて，学生自習用ＰＣのソフトウェア更新，コンピュータ教室のＰＣの新機種へ

の更新及びソフトウェア更新，教員用ＰＣの新規環境整備，学内無線ＬＡＮ環境のエリア拡大等の情報環境を最新のものに整備していく。

これらのことから，収容定員を 1,000 人増加した場合においても，本学学生の学修環境機能が低下することはない。

②定員を充足する見込み

１）高校生アンケート調査結果における学生の確保の見通し

前項「入学定員設定の考え方」及び 18 歳人口減少等の社会的情勢を鑑みつつ，より客観的な定員充足の見込みを担保するため，第三者機関である株式会社紀伊國屋書店及び株式会社高等教育総合研究所に調査を委託した。（資料１）

高校２年生を対象に実施したアンケート結果では，本学群に「興味・関心をもった」「やや興味・関心をもった」と回答した生徒が 25.3%，4,593 人となっている。この 4,593 人を対象に受験の意思について質問し，「受験したい」「受験を検討したい」と回答した生徒が 32.1%，1,478 人であった。これは入学定員の約６倍に相当する数字である。さらに，「受験したい」と回答した 365 人のうち，受験し，合格した場合に「進学したい」と強い進学意欲を示した回答は 287 人であり，入学定員 250 人を上回っている。これに加えて，「受験を検討したい」と回答した 1,113 人が合格した場合に「進学したい」と回答した 215 人まで含めると，502 人に上る結果となった。この他，調査を実施していない東京都及び神奈川県内の高等学校や，首都圏以外の受験生も多数受験することが予見されることから，十分な定員充足が見込まれる。

さらに，本学群への興味・関心を問う設問で「どちらともいえない」「興味・関心をもてなかった」の回答群及び受験の意思を問う設問で「どちらともいえない」「受験しない」を選択した生徒のうち，21.8%，3,460 人は「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」と回答している。これは，アンケート用紙（資料１中の添付資料①）に記された情報のみで回答しているからであると考えられ，後項に詳述する広報活動において高校訪問や出張講義，オープンキャンパス等の充実を図ることで，より安定した定員の充足が見込める。

２）外部資料からみた同系統学部の募集状況及び入学定員充足率

資料２は，日本私立学校振興・共済事業団が公表している「私立大学・短期大学等入学志願動向（平成 26 年度版）」の「学部系統別の動向」である。これは，全国の私立大学の学部を系統別に区分し，平成 26 年度の入試動向が分かるデータである。本学群に類似する系統は，区分＜その他＞の「国際」を冠する４つの学部系統に含まれると想定できる。国際学部は 10 学部，国際教養学部は９学部，国際関係学部は７学部，国際コミュニケーション学部は６学部の集計値として公表している。まず，国際学部をみると，入学定員 2,185 人に対して志願者が 11,336 人であり，志願倍率は 5.2 倍であった。また，入学者は 2,286 人で入学定員充足率は 104.6%となり，全系統の合計における充足率の 103.8%を上回って

いる。同様に，国際教養学部，国際関係学部，国際コミュニケーション学部の入学定員充足率をみると，国際コミュニケーション学部は 99.6%で若干の割り込みがあるものの，他は全系統の合計における充足率を上回っている。このことから，私立大学の「国際」を冠する学部は，入学者確保において良好な結果であることが分かった。

資料３は，「日本私立学校振興・共済事業団　私立大学等入学志願の過去５年間の動向」のうち，「国際」を冠する４学部を過去５年間分抽出・作成したデータである。４学部の合計をみると，平成 22 年度から平成 26 年度にかけて学部数に大きな変化はない一方で，志願者数が平成22年度の35,764人から平成26年度の40,410人に増加していることから，年々人気が上昇していることが予測できる。また，入学定員充足率も105%前後で推移していることから，安定的な入学者確保ができる分野であることが分かる。

資料４は，「近隣にある私立大学の同類系学部における募集状況」である。これは，本学の近隣私立大学の同系統学部のセンター試験利用入試を含む一般入試の募集状況である。ここでは，東京都及び神奈川県内にある「国際」「コミュニケーション」「グローバル」を含んだ名称を冠する 17 大学を抽出した。17 大学の志願者の合計は,平成 24 年度の 20,712 人から平成 26 年度の 21,255 人と，若干ながら増加傾向にあった。17 大学全体の倍率（志願者数÷合格者数）をみると，過去３年間で 3.6 倍以上を保っている。

資料５は，「近隣にある私立大学の同類系学部における定員充足状況」である。これは，実際の学生確保の状況を明らかにしたものである。17 大学のうち，３大学が平成 24 年４月以降に設置されており，該当する３大学の収容定員は入学定員に設置年数を掛けた数値を設定した。17 大学中，14 大学が収容定員を満たす学生数を確保している。また，満たしていない２大学においては 95%程度であることから，今後，改善する可能性は高く，全体として各大学とも充分に学生を確保しているといえる。

これら高校生アンケート調査結果における学生の確保の見通し及び外部資料からみた同系統学部の募集状況及び入学定員充足率の結果から，本学群において学生を確保し，定員を充足することが充分にできるものと判断する。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①高校生アンケート調査結果の概要

前述の通り，第三者機関である株式会社紀伊國屋書店及び株式会社高等教育総合研究所に調査を委託した。（資料１）

調査にあたっては，平成 26 年度の高校２年生を調査対象とし，本学の既設学部における過去３年間において志願実績がある東京都及び神奈川県内の高等学校 584 校の中から，任意に選んだ 169 校に実施を依頼した。その結果，89.3%に当たる 151 校が回答に応じ，有効回答 18,150 件を得た。当該地域は本学の主となる通学地域であり，上述の通り毎年度志願実績のある生徒が存在する高等学校から選定している。調査対象及び回答件数の観点か

ら，現実性と適切性があり，客観性も十分に担保されている。

調査内容は資料１中の添付資料①の通りであり，本学群の概要において，「学群・学類の名称」，「開設時期」，「入学定員」，「所在地」，「養成する人材像」，「教育の特徴」，「卒業後の進路」，「学費」，「競合する大学・学部・学科等の名称」について明示している。

問６において，本学群への興味・関心について質問した。その結果，「興味・関心をもった」及び「やや興味・関心をもった」との回答が 25.3%，4,593 人，「どちらともいえない」が 40.3%，7,312 人，「興味・関心をもてなかった」が 30.2%，5,482 人であった。これは，対象となる高等学校の層が多様であることや文系・理系が混在する中での調査結果としては，遜色ない結果であると判断できる。

問７では，本学群に興味・関心を持った層に対して，その理由を複数回答可の形式で質問した。最も多かった回答は，「もっと語学力を向上させたいから」が 50.0%，2,297 人であった。次に，「留学や異文化交流に興味をもっているから」が 41.1%，1,887 人，「様々な国や地域について深く学びたいから」が 29.7%，1,365 人という結果であった。本学群に寄せられる期待として語学教育，留学，異文化交流，地域研究が挙げられており，この期待に応えるべく，着実に設置計画を進めていくこととする。

問８では，問７同様に，興味・関心を持った層に対して，受験の意思について質問した。その結果，「受験したい」及び「受験を検討したい」との回答が 32.1%，1,478 人であった。一方，「どちらともいえない」は 46.6%，2,142 人，「受験しない」が 20.1%，922 人であった。前述の通り，対象となる高等学校の層が多様である中での調査結果としては，遜色ない結果であると判断することができる。

問９では，受験したい又は検討したい層に対して，合格した際の進学意思について質問した。その結果，「進学したい」が 34.0%，502 人，「併願大学の結果によっては進学したい」が 45.0%，665 人，「進学しない」が 1.9%，28 人であり，入学意思を確認できる前向きな回答が目立った。

なお，問 10 において本学群への興味・関心を問う設問で「どちらともいえない」「興味・関心をもてなかった」の回答，及び受験の意思を問う設問で「どちらともいえない」「受験しない」を回答した者に対して，「興味・関心を持てない理由及び受験に前向きになれない理由」を複数回答可の形式で質問した。最も多かった回答は，「興味・関心のある学問分野がないから」が 37.6%，5,964 人であった。次に，「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」が 21.8%，3,460 人，「構想内容に魅力を感じないから」が 16.2%，2,566 人と続いた。学問分野については，対象となる高等学校の層が多様であることや文系・理系が混在する中では止むを得ないものと認識している。

一方，「詳しい情報を得たうえで検討したい」，「構想内容に魅力を感じない」との回答については，アンケート用紙に記された限られた情報のみを基にしてアンケートを実施しているためと考えられる。後述する通り，広報活動の体制及び内容の充実を図ることによって多くの情報を提供し，本学群の魅力を最大限にアピールすることによって，より多くの

志願者の獲得を目指す。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

「外国語，特に英語・中国語・日本語（外国人留学生）の高いコミュニケーションスキルを修得しようとする意欲とそのための基礎的な学力を持つ人。国際社会における異なる価値観や様々な地域や人々に対して共感力と理解力を持つ資質を有する人。国際社会の一員として国際協力や国際貢献，国際事業に意欲を持つ人を求める」という本学群のアドミッションポリシーに適う学生の確保に向けて，教職協働による広報活動を展開する。

また，開設以降も学生を安定的かつ長期的に確保していくためには，開設前から本学群の認知度の向上を図っていく広報活動を重層的に行っていくことが肝要であるとの認識に立ち，以下の体制及び内容で取り組むこととしている。

①広報活動の体制

学長を中心として，本学群専任教員及び大学における広報及び募集活動の主管部署である入試事務室職員の他，全学的な教職協働体制により，本学群の認知度及び受験対象者の進学意欲の向上のための広報活動を行う。

教員は，主として高校訪問や出張講義，模擬授業を中心に行う。教育を行う教員の視点で，グローバル人材を育成するためにどのような教育を行っていくのかを高等学校の教員や生徒たちに示していく。これに加え，高等学校での進学説明会やイベント会場等で行われる進学相談会等にも職員とともに積極的に参加し，より魅力的な情報の発信を行う。

職員は，オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの企画，広報媒体掲載の準備を行いつつ，高校訪問，進学ガイダンスや進学相談会等に積極的に参加することとし，全学的なプロジェクトチーム体制をもって臨む。

②広報活動の内容

１）高校訪問

本学の通学圏内にある東京都及び神奈川県をはじめ，埼玉県，千葉県，山梨県東部，静岡県東部に所在する高等学校を定期的に訪問する。訪問に際しては進路指導担当教諭に広報活動を行いつつ，当該年度の受験生の進路志望状況等の情報収集も併せて行う。

また，上記の地域以外の全国各地の高等学校への訪問も教職員で随時実施する。実施に際しては，当該地域で開催される進学説明会の前後に各高等学校を訪問し，進学説明会への参加の要請や，進路担当教諭だけでなく，本学への進学希望者がいる場合は，当該生徒との面談も行い，教育内容や入試の実施方法等についての相談を行う。

全国各地における高校訪問は，教職員だけでなく，本学卒業生や本学在学中の学生の保護者の協力も得て実施する。本学では在学中の学生の保護者の組織を地域ごとに設けており，毎年１回，各地で「保護者懇談会」を行い，遠方地域から親元を離れて通う学生の保

護者に対し，教育研究活動の説明や相談をはじめとした懇談を行っている。その説明等の中で，学生の出身高等学校や当該地域の高等学校へ出向いてもらい，ポスターの掲示依頼や進路担当教諭等に説明等を行う。教職員の視点にはない保護者ならではの視点で本学の魅力を伝えてもらうことが可能であり，高等学校からの評判も良いことから，本学群についても保護者の視点から全国各地の高等学校への訪問も行う。これに加え，本学を卒業した学生の保護者で組織している「校友会」の協力も得て，積極的に行う。

なお，本学卒業生や学生の保護者による本学群の開設前の高校訪問については，事前に保護者懇談会等でレクチャーを行う等して理解を得て，既設学群の広報活動と併せて実施する。

２）出張講義及び模擬授業

本学の通学圏内である東京都及び神奈川県をはじめ，埼玉県，千葉県，山梨県東部，静岡県東部に所在する高等学校を中心に，専任教員による出張講義や模擬授業を積極的に実施する。教育関係の広告代理店からの依頼による出張講義や高等学校から直接の依頼によるものなど，様々な形で数多くの依頼がある。出張講義の内容は具体的に示されることが多く，その内容に応じて積極的に対応する。その際は，本学群専任教員全員で対応する。

また，本学は「高大連携制度」を設けており，東京都及び神奈川県の高等学校を中心に，現在 67 校と協定を締結している（資料６）。この高大連携協定校を含め，通学距離圏内にある高等学校に対し，入試事務室と連携して出張講義や模擬授業を行う。この他，学校行事として本学へキャンパス見学に訪れる高等学校も数多くあるため，生徒や引率の教諭に対しても模擬授業を行うことで，本学群の魅力を十分に伝えていく。

３）オープンキャンパス

本学では，例年３月から 11 月にかけて，年間６回～７回の回数でオープンキャンパスを実施しており，平成 25 年度は 10,000 人，平成 26 年度は 13,000 人を超える来場者（資料７）となっている。開催する時期によって対象学年が異なってくることから，随時実施内容を変えている。主な実施内容としては，大学全体のガイダンスにはじまり，本学群や既設学群の教育内容等に関するガイダンスや体験授業，ワークショップ，留学等の国際交流や在学生との懇談，キャンパスツアー，入試ガイダンス等を実施する。開催に際しては各学群の専任教員，入試事務室を中心とした各部署の専任職員による教職員のほか，桜インターンと呼称している本学在学生が多数連携して行う。

オープンキャンパスは高校生に対して本学の魅力を伝える最大の広報手段の一つとなっており，本学群においてもこのオープンキャンパスを十分に活用する。

４）ウェブサイト

ウェブサイトは高校生に対し，本学の魅力を伝える手段として最も有効な第一接触媒体

である。本学群のウェブサイトの構築に際しては，開設前より，文部科学省の「ＰＲ活動について」に従い，学群全体の概要，３つのポリシー（アドミッションポリシー，カリキュラムポリシー，ディプロマポリシー），学群の特色や魅力，教員紹介，キャリア，学生生活等を掲載する。掲載内容については，文字だけでなく，映像等による動画での紹介も取り入れ，より具体的な魅力を発信していくことができるよう努める。

また，高校生のスマートフォン保有率は９割を超え，スマートフォンを利用したアクセスが極めて高くなってきていることから，スマートフォン用のウェブサイトも同等に構築する。

開設後も随時更新を行い，常に最新の情報を提供することを心掛けるとともに，学生の声も多く発信していくことで，高校生が本当に知りたいことを学生の視点から伝えていくことにも注力する。

５）進学相談会及び進学説明会への参画

進学情報誌や進学情報サイト等の各種媒体の広告代理店等が主催する全国各地の会場で開催する進学相談会，高等学校での進学説明会に積極的に参画する。この相談会や説明会は年間を通じて実施されており，時期により高校３年生だけでなく，１年生や２年生を対象として実施される。昨今は１年生から進学相談会へ参加する生徒も多く，早い時期から進路の意識が高まっている。本学群においても，１，２年生のうちから魅力を伝え，進学を希望してもらえるよう意識づけを行う。

また，これらで出会った生徒たちには，以降も継続して本学の魅力を発信し続けていく。郵送物やソーシャルネットワーキングサービスを活用し，発信する時期によりその内容も変えていく。年度初めのうちはオープンキャンパスの情報，その後は留学等の国際交流，入試日程や入試内容等といったように，手元に届いた高校生が常に新しい情報に触れることができるようにする。

６）進学情報誌等の媒体への掲出

進学情報誌や進学情報サイトへの掲出も積極的に実施する。掲出に際しては，本学におけるこれまでの掲出実績を勘案しつつ実施するほか，本学群単体での各種媒体（進学情報誌や進学情報サイト，新聞，雑誌，メディア等）への掲出も積極的に行う。

７）国内の日本語学校及びインターナショナルスクール等及び海外教育機関への訪問

本学群は外国人留学生の受入も想定した教育課程であることから，東京都及び神奈川県を中心に，全国各地の日本語学校やインターナショナルスクールへの訪問を行う。本学の入試事務室には，日本語学校やインターナショナルスクールを担当する外国人職員がおり，これに加えて，本学群の専任教員も訪問し，外国人留学生の獲得に注力すべく，教育内容や入試内容等の広報活動を積極的に行っていく。

また，本学は現在，中国の大学や中国及びモンゴルの高等学校並びに中国国内の日本語学校と提携している。今後は，中国語圏のみならず，近年留学生が飛躍的に増加しているベトナムやインドネシア等の東南アジア地域や英語圏その他地域の教育機関とも提携することで，世界各地からの外国人留学生の積極的な確保も目指す。

さらに，本学は国際的な質保証にも積極的に取り組んでいる。その活動の一環として，世界大学総長協会（ＩＡＵＰ）や国連アカデミックインパクト（ＵＮＡＩ）をはじめ，アジア・キリスト教大学協会（ＡＣＵＣＡ），国際大学協会（ＩＡＵ），アジア太平洋大学交流機構（ＵＭＡＰ）等に加盟し，国際的な連携協力体制を整えており，本学群の広報活動についてもトップマネジメントによって推し進めていく。この他にも，米国カリフォルニア州・サンフランシスコに拠点を置く「桜美林学園アメリカ財団（ＯＧＦＡ）」の協力を得て，米国国内の教育機関との提携も推し進めることにより，本学群が世界各地から外国人留学生が集う場となるよう，積極的な広報活動を行っていく。

８）志願予定者の動向分析

上述した高校訪問や進学相談会，オープンキャンパス等で得た志願予定者の動向等は，入試事務室において情報を集約し，分析を行う。

また，文部科学省等の公的機関や進学媒体等より提供されるデータ等からも受験生や他大学等の動向も分析し，その分析結果を基に広報活動の内容を不断に改善しつつ，学生の確保に注力する。

２　人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

①グローバル・コミュニケーション学群の人材の養成に関する目的

本学群で養成する人材は，様々な問題に対処できる幅広い知性と専門的な能力を持ち合わせると同時に，グローバル社会に貢献するためのリーダーシップを発揮できる人間である。グローバル企業や国際機関，外資系企業をはじめ，海外進出している日本企業，あるいは政府機関や地方公共団体の中で，中核的・専門的な働きを為す人材を育成することを目指している。

直面する問題や課題に対し，多角的な視野と知識を基に思考と分析を行い，具体的な解決策を提示できる人材，あるいは，さまざまな環境の中で複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を持つと同時に，能動的に課題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人材の育成を目標としている。これらの能力を有した人材は現代の社会が求めている人材であり，社会の中の様々な業種，職種で広く受け入れら

れるものと確信している。

本学群で養成する人材像を端的に示すと，次の通りとなる。

１）語学に長け，

２）コミュニケーション能力が高く，

３）分析や創造を伴う思考力と，問題解決に向けた計画力や実行力を有し，

４）国や文化を越えたグローバルな協働のために，リーダーシップを発揮できる人材

なお，想定する卒業後の主な就職先としては，グローバル企業，国際機関，外資系企業をはじめ，商社，金融業，製造業，教育機関，公務員等である。

②教育研究上の目的

上記「①グローバル・コミュニケーション学群の人材の養成に関する目的」を達成するための教育研究上の目的は，次の通りである。

「外国語教育を基本とし，国際語としての英語，又は，外国語としての中国語や日本語を修得する中で，言語の構造や機能，及び当該言語が話されている社会や文化を深く研究し，日本と世界を比較対照できる識見を培いながら，協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育を行う。」

具体的な教育方法の特徴は以下の５点である。

１）国際語としての英語，外国語としての中国語や日本語を高い実用レベルで修得できる教育を行う。

２）当該言語が話されている社会に留学するプログラムを実施し，地域文化を学ばせる。

３）日本文化について，日本語のみならず英語や中国語でも理解可能とするカリキュラムを設置する。

４）学生生活を営む中で，外国人留学生とともにグローバル社会を修得させる。

５）イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して協働力を高めさせる。

（２）上記（１）が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①企業・団体向けアンケート調査における本学群の評価

本学群の人材養成と社会的，地域的な人材需要が適合しているかについて，より客観的な指標による確証を得るため，第三者機関である株式会社紀伊國屋書店及び株式会社高等教育総合研究所に調査（資料１）を委託した。

調査対象は，平成 26 年 12 月に本学群の採用が期待できる企業・団体として，本学既設学群において過去に就職実績のある近隣８都県に拠点を持つ 2,003 社・団体である。これらの企業・団体に対しアンケート調査を依頼したところ，460 件の回答を得た。

問６において，本学群の社会的ニーズについて質問した。その結果，「ニーズは極めて高

い」及び「ニーズはある程度高い」が 88.3%，406 社・団体,「ニーズは高くない」が 2.8%，13 社・団体であり，幅広い職業人養成を旨とする本学群の社会的ニーズが極めて高いことが分かる結果となった。

問７では，本学群の評価できる点について複数回答可の形式で質問した。最も多かった回答は「語学力とともにコミュニケーションスキルを修得させる」が 75.2%，346 社・団体,「留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して，グローバルに協働できるリーダーシップを養う」が 53.7%，247 社・団体,「実践的な語学教育で語学力を向上させる」が 42.2%，194 社・団体と続いた。正に，本学が構想する「養成する人材像」と合致する結果となった。

問８では，本学群に期待すること，求めることについて複数回答可の形式で質問した。最も多かった回答は「何事も積極的に取り組む行動力がある人材を養成すること」が 45.9%，211 社・団体であった。次に「周囲とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材を養成すること」が 21.5%，99 社,「幅広い知識・教養を身につけている人材を養成すること」が 20.2%，93 社・団体となった。本学群では，キャンパス内でも外国人留学生と席を並べる授業を数多く配置し，さらに海外へ留学することから，積極性や多様な人間とのコミュニケーションを高いレベルで修得させる。また，多様な科目を用意しているほか，外国人留学生とともに過ごす刺激の多い学生生活の中で，より能動的に幅広い知識・教養を修得できる環境を整えている。

問９では，本学群の出身者を採用したいと考えるかについて質問した。その結果,「採用したい」が 30.4%，140 社・団体,「採用を検討したい」が 39.1%，180 社・団体であり，採用に前向きな企業･団体が７割近くに及んでいる。一方,「どちらともいえない」は 29.1%，134 社・団体,「採用したいと思わない」が 1.1%，５社・団体となっている。どちらともいえないと回答した企業・団体は，受験生へのアンケート同様，情報量の不足も考えられるため，キャリア開発センターとも連携し，適切な広報活動を行っていくことで，さらなる採用枠の獲得が見込まれる。

問 10 では，問９において「採用したい」「採用を検討したい」と回答した企業・団体に対して，採用可能と思われる人数について質問した。その結果,「１人」が 25.3%，81 社・団体,「２人」が 23.4%，75 社・団体であり，厳選採用の情勢を受けてはいるが，今回のアンケート回答企業・団体のみで総計 320 人の採用可能人数が示され，入学定員 250 人をはるかに上回る結果を得ることができた。調査企業・団体以外の企業・団体においても，本学群の分野は多数の採用が見込まれることは想像に難くなく，十分な需要があるとの結論を得た。

②外部資料からみる本学群の人材需要の見通し

資料８は，日本企業における海外子会社及び関連会社数を平成 15 年度から平成 24 年度まで抽出した表である。まず，全国の企業（本社の所在地）でみると，海外に子会社又は

関連会社を持つ企業は平成 15 年度の 23,402 社から年々増加し，平成 24 年度には 40,173 社となり，平成 15 年度から平成 24 年度の増加率は 171.7%となっている。また，東京都に本社を置く企業でみると，平成 15 年度の 13,004 社から平成 24 年度には 22,275 社となっている。さらに，神奈川県に本社を置く企業では，平成 15 年度の 792 社から平成 124 年度には 1,505 社と，増加率は 190.0%となっている。このように，日本企業における海外での子会社・関連会社数はこの数年で大幅に増加していることが分かる。

資料９は，日本国内の外資系企業数の推移を平成 15 年度から平成 24 年度まで抽出した表である。欧州系企業，米国系企業，アジア系企業，中国系企業（アジア系企業に含む），その他の分類で分けている。全体でみると平成 15 年度の 2,038 社から微増，微減を繰り返し，平成 24 年度には 2,976 社となっており，この間の増加率は 146.0%である。地域別での平成 15 年度から平成 24 年度の増加率をみると，米国系企業が 106.6%と留まる中，米国系企業以外の地域からの参入が増加していることが分かる。特に，アジア系企業が 214.4%と急増し，企業数でも米国系企業を超す勢いで増加している。さらに，その他の地域の外資系企業数も伸びてきており，海外企業の日本参入は今後も増加することが予測できる。

これらの表が示す通り，日本企業の海外進出及び外資系企業の日本参入がともに伸びていることから，グローバルな規模で活躍できる人材の需要も同様に増加していることが予測できる。本学群の養成する人材像は，「語学力を長け，コミュニケーション能力が高く，分析や創造を伴う思考力と，問題解決に向けた計画力や実行力を有し，国や文化を越えたグローバルな協働のために，リーダーシップを発揮できる人材を養成する」である。正に，グローバルな規模で活躍できる人材の養成であることから，社会における需要は今後ますます増加していくことが予測できる。

以上の企業・団体向けアンケート調査における評価結果及び外部資料からみる人材需要の見通しの結果から，本学群の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的，地域的な人材需要の動向を充分に踏まえたものであると判断できる。

資料目次

資料番号	資料名
資料１	グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 設置構想についてのニーズアセスメント調査　報告書
資料２	日本私立学校振興・共済事業団　私立大学等入学志願動向
資料３	日本私立学校振興・共済事業団　私立大学等入学志願の過去５年間の動向
資料４	近隣にある私立大学の同類系学部における募集状況
資料５	近隣にある私立大学の同類系学部における定員充足状況
資料６	桜美林大学 高大連携協定校一覧
資料７	オープンキャンパス来場者数推移
資料８	日本企業の海外子会社・関連会社数の推移
資料９	日本国内の外資系企業数の推移

資料１

桜美林大学
グローバル・コミュニケーション学群
７７グローバル・コミュニケーション学類
設置構想についてのニーズアセスメント調査
報告書

株式会社　紀伊國屋書店

株式会社　高等教育総合研究所

目　　次

１章　学生確保の見通し調査（高校生アンケート）　結果

１　アンケート　概要　4
２　全質問項目の集計結果　6
３　集計結果の分析　１６

まとめ　２５

２章　人材需要の見通し調査（企業・団体等向けアンケート）結果

１　アンケート　概要　２８
２　全質問項目の集計結果　２９
３　集計結果の分析　３９

添付資料

【添付資料①】設置構想についての高校生アンケート調査票　４９
【添付資料②】設置構想についての企業・団体等向けアンケート調査票　５３

１章

学生確保の見通し調査（高校生アンケート）

結　果

１．学生確保の見通し調査（高校生アンケート）の概要

◆調査の目的 ： 本調査は、桜美林大学が平成 28 年 4 月設置に向けて構想中のグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関により高校生へのアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆調 査 期 間 ： 平成 26 年 11 月～12 月

◆調 査 対 象 ： 平成 28 年 4 月設置をめざすグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）に進学する可能性が最も高い、平成 26 年度の高校 2 年生を調査対象とした。

◆調 査 方 法 ： 桜美林大学の既設学部における過去 3 年間の志願実績より 584 校を対象校として選定し、期間内（平成 26 年 11 月末まで）に担当者と接触ができた 169 校に実施を依頼。許可を頂いた 151 校に桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の説明が入ったアンケート用紙を送付。
各高校の教員が調査対象である高校 2 年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。なお、対象校の選定条件は以下の通りである。
［１］平成 24 年度から平成 26 年度までの過去 3 年間で、平均 2 人以上の志願実績がある高等学校
［２］上記高等学校のうち、桜美林大学の所在地から考慮し東京都および神奈川県内にある高等学校のみ抽出

◆調 査 内 容 ： アンケート項目は全 10 問で、全て選択肢式とした。
主な質問内容は、以下の通りである。
『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
『回答者の高校卒業後の希望進路について』
『桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）への進学意欲について』

◆実　施　校 ： 151 校　　（実施率　89.3%　／　依頼数　169 校）

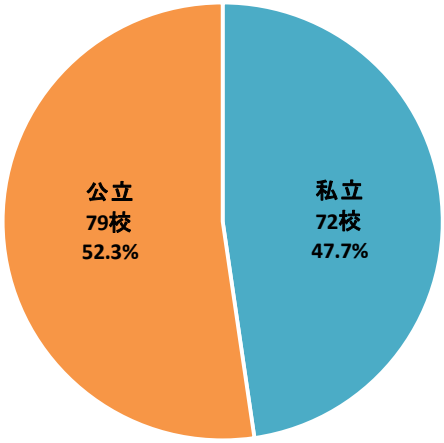
◆有 効 件 数 ： 18,150 件　（回収件数　18,229 件　／　有効件数率　99.6%）

◆実 施 高 校 ： 桜美林大学の既設学部における、平成 24 年度から平成 26 年度までの過去 3 年間までに志願実績が 2 人以上である東京都および神奈川県内の高等学校 584 校より、期間内に高等学校の担当者と接触ができた 169 校にアンケート実施の依頼を行い、了解が得られた 151 校よりアンケート用紙を回収した。

１．市町村別の実施高校数

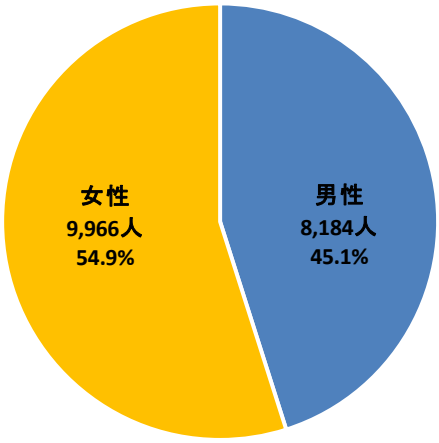
地域	公立	私立	合計	割合
東京都	26	46	72	47.7%
神奈川県	53	26	79	52.3%
合計	79	72	151	100.0%
割合	52.3%	47.7%	100.0%	

２．設置者別の実施高校数

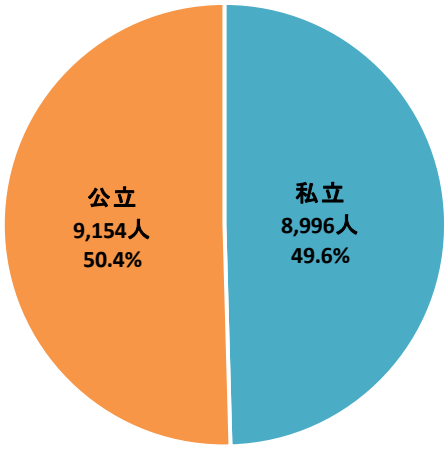


◆実 施 人 数 ： 18,150 人（有効件数回答）

１．男女別の実施人数



２．在籍高校設置別の実施人数



２．高校生アンケート　全質問項目の集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

4～13 ページは、アンケートで回答を得た高校生（18,150 人）の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1　あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 男性	8,184	45.1%
2. 女性	9,966	54.9%
（無回答）	0	0.0%
合計	18,150	100.0%

問2　あなたの居住地を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 東京都	6,496	35.8%
2. 神奈川県	10,968	60.4%
3. 千葉県	199	1.1%
4. 埼玉県	396	2.2%
5. 静岡県	44	0.2%
6. その他	47	0.3%
（無回答）	0	0.0%
合計	18,150	100.0%

問3　現在のところ興味のある高校卒業後の進路をすべて教えてください。（あてはまるものすべてに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 18,150 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
1. 四（六）年制大学	14,083	77.6%
2. 短期大学	1,874	10.3%
3. 専門学校	4,609	25.4%
4. 就職	1,392	7.7%
5. その他	316	1.7%
（無回答）	56	0.3%

問4　現在のところ、あなたの興味のある分野について教えてください。（1番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 文学・歴史・心理	2,415	13.3%
2. 経済・経営・ビジネス	2,420	13.3%
3. 法学・政治	716	3.9%
4. 外国語・国際関係	1,971	10.9%
5. 社会・観光・社会福祉	808	4.5%
6. 教育・保育	1,944	10.7%
7. 理学・工学・情報	1,735	9.6%
8. 農・畜産・水産	432	2.4%
9. 医学・歯学・薬学	584	3.2%
10. 医療	749	4.1%
11. 栄養・家政	716	3.9%
12. スポーツ・健康科学	1,115	6.1%
13. 芸術	1,306	7.2%
14. その他	1,036	5.7%
（無回答）	203	1.1%
合計	18,150	100.0%

問4　現在のところ、あなたの興味のある分野について教えてください。（2 番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 文学・歴史・心理	2,484	13.7%
2. 経済・経営・ビジネス	2,240	12.3%
3. 法学・政治	917	5.1%
4. 外国語・国際関係	1,784	9.8%
5. 社会・観光・社会福祉	1,465	8.1%
6. 教育・保育	1,885	10.4%
7. 理学・工学・情報	664	3.7%
8. 農・畜産・水産	551	3.0%
9. 医学・歯学・薬学	702	3.9%
10. 医療	594	3.3%
11. 栄養・家政	839	4.6%
12. スポーツ・健康科学	1,256	6.9%
13. 芸術	1,074	5.9%
14. その他	363	2.0%
（無回答）	1,332	7.3%
合計	18,150	100.0%

問4　現在のところ、あなたの興味のある分野について教えてください。（3 番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 文学・歴史・心理	2,255	12.4%
2. 経済・経営・ビジネス	1,780	9.8%
3. 法学・政治	1,267	7.0%
4. 外国語・国際関係	1,415	7.8%
5. 社会・観光・社会福祉	1,612	8.9%
6. 教育・保育	1,856	10.2%
7. 理学・工学・情報	521	2.9%
8. 農・畜産・水産	564	3.1%
9. 医学・歯学・薬学	599	3.3%
10. 医療	448	2.5%
11. 栄養・家政	893	4.9%
12. スポーツ・健康科学	1,356	7.5%
13. 芸術	970	5.3%
14. その他	358	2.0%
（無回答）	2,256	12.4%
合計	18,150	100.0%

問5　あなたは進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。（1 番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 学びたい学部・学科・コースがある	9,185	50.6%
2. 専門分野を深く学べる	877	4.8%
3. 教育方針やカリキュラムが魅力的	339	1.9%
4. 自分の興味や可能性が広げられる	865	4.8%
5. 教育内容のレベルが高い	179	1.0%
6. 国際的センスが身につく	187	1.0%
7. クラブ・サークル活動が盛ん	354	2.0%
8. 学生生活が楽しめる	448	2.5%
9. 学力レベルが自分に合っている	682	3.8%
10. 入試方式が自分に合っている	66	0.4%
11. 伝統や実績がある	145	0.8%
12. 校風や雰囲気がよい	279	1.5%
13. 有名である	232	1.3%
14. 学習施設や環境が整っている	110	0.6%
15. 自宅から通える	971	5.3%
16. 学費が安い	415	2.3%
17. 資格取得に有利である	552	3.0%
18. 就職に有利である	1,011	5.6%
19. 将来の選択肢が増える	641	3.5%
20. 卒業後に社会で活躍できる	450	2.5%
（無回答）	162	0.9%
合計	18,150	100.0%

問5　あなたは進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。（2 番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 学びたい学部・学科・コースがある	1,452	8.0%
2. 専門分野を深く学べる	1,718	9.5%
3. 教育方針やカリキュラムが魅力的	808	4.5%
4. 自分の興味や可能性が広げられる	1,334	7.3%
5. 教育内容のレベルが高い	353	1.9%
6. 国際的センスが身につく	399	2.2%
7. クラブ・サークル活動が盛ん	545	3.0%
8. 学生生活が楽しめる	1,000	5.5%
9. 学力レベルが自分に合っている	1,276	7.0%
10. 入試方式が自分に合っている	189	1.0%
11. 伝統や実績がある	303	1.7%
12. 校風や雰囲気がよい	865	4.8%
13. 有名である	414	2.3%
14. 学習施設や環境が整っている	442	2.4%
15. 自宅から通える	1,860	10.2%
16. 学費が安い	774	4.3%
17. 資格取得に有利である	1,005	5.5%
18. 就職に有利である	1,384	7.6%
19. 将来の選択肢が増える	1,088	6.0%
20. 卒業後に社会で活躍できる	615	3.4%
（無回答）	326	1.8%
合計	18,150	100.0%

問5　あなたは進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。（3 番目）

選択項目	回答数	構成比
1. 学びたい学部・学科・コースがある	868	4.8%
2. 専門分野を深く学べる	765	4.2%
3. 教育方針やカリキュラムが魅力的	839	4.6%
4. 自分の興味や可能性が広げられる	1,331	7.3%
5. 教育内容のレベルが高い	317	1.7%
6. 国際的センスが身につく	375	2.1%
7. クラブ・サークル活動が盛ん	473	2.6%
8. 学生生活が楽しめる	1,530	8.4%
9. 学力レベルが自分に合っている	781	4.3%
10. 入試方式が自分に合っている	256	1.4%
11. 伝統や実績がある	310	1.7%
12. 校風や雰囲気がよい	1,288	7.1%
13. 有名である	471	2.6%
14. 学習施設や環境が整っている	700	3.9%
15. 自宅から通える	1,777	9.8%
16. 学費が安い	1,051	5.8%
17. 資格取得に有利である	677	3.7%
18. 就職に有利である	1,703	9.4%
19. 将来の選択肢が増える	978	5.4%
20. 卒業後に社会で活躍できる	1,172	6.5%
（無回答）	488	2.7%
合計	18,150	100.0%

問6　あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に興味・関心をもちましたか。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 興味・関心をもった	1,188	6.5%
2. やや興味・関心をもった	3,405	18.8%
3. どちらともいえない	7,312	40.3%
4. 興味・関心をもてなかった	5,482	30.2%
（無回答）	763	4.2%
合計	18,150	100.0%

以下の問7は、問6で「1. 興味・関心をもった」「2. やや興味・関心をもった」を選択した 4,593 人が回答対象である。

問7　あなたが桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群」（仮称）に興味・関心をもった理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 4,593 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
1. 様々な国や地域について深く学びたいから	1,365	29.7%
2. もっと語学力を向上させたいから	2,297	50.0%
3. 留学や異文化交流に興味をもっているから	1,887	41.1%
4. 将来、グローバルな規模で活躍できる人材になりたいから	1,101	24.0%
5. 桜美林大学に興味をもっているから	296	6.4%
6. 通学が便利であるから	178	3.9%
（無回答）	60	1.3%

以下の問8は、問6で「1．興味・関心をもった」「2．やや興味・関心をもった」
を選択した 4,593 人が回答対象である。

問8　あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1．受験したい	365	7.9%
2．受験を検討したい	1,113	24.2%
3．どちらともいえない	2,142	46.6%
4．受験しない	922	20.1%
（無回答）	51	1.1%
合計	4,593	100.0%

以下の問9は、問8で「1．受験したい」「2．受験を検討したい」を選択した 1,478 人が回答対象である。

問9　あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」を受験し合格した場合、進学したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1．進学したい	502	34.0%
2．併願大学の結果によっては進学したい	665	45.0%
3．進学しない	28	1.9%
4．まだわからない	250	16.9%
（無回答）	33	2.2%
合計	1,478	100.0%

以下の問 10 は、問6で「3. どちらともいえない」「4. 興味・関心をもてなかった」、
問8で「3. どちらともいえない」「4. 受験しない」
をそれぞれ選択した 15,858 人が回答対象である。

問 10　あなたが桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に興味・関心をもてない、または受験に前向きになれない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに〇）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 15,858 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
1. 構想内容に魅力を感じないから。	2,566	16.2%
2. 興味・関心のある学問分野がないから。	5,964	37.6%
3. 興味・関心のある学問分野はあるが、他大学への進学を検討したいから。	2,520	15.9%
4. 新設学科に進学するのは不安だから。	850	5.4%
5. 自宅からの通学が不便そうだから。	1,407	8.9%
6. もっと詳しい情報を得た上で検討したいから。	3,460	21.8%
7. 大学進学以外の進路を検討しているから。	1,317	8.3%
8. その他	917	5.8%
（無回答）	3,137	19.8%

3. 高校生アンケート　集計結果の分析

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

分析 1

回答を得た高校生の基本情報

本調査は桜美林大学の既設学部の平成 24 年度から平成 26 年度の過去 3 年間において、志願実績の平均が 2 人以上ある東京都と神奈川県内の高等学校 584 校のうち、実施の許可を得た 151 校に在籍している平成 26 年度の高校 2 年生を対象に実施し、18,150 人より回答を得た。グラフ 1-1 が示す通り、本アンケートは「男性」が 8,184 人（45.1%）、「女性」が 9,966 人（54.9%）で実施した調査内容となっている。

また、表 1-2 およびグラフ 1-3 が示す通り、回答を得た高校 2 年生の居住地としてもっとも多かったのは「神奈川県」で 10,968 人（18,150 人のうち 60.4%）、2 番目は「東京都」で 6,496 人（同 35.8%）であり、合計すると 96.2%にあたる 17,464 人が「神奈川県」および「東京都」に居住していると回答した。本調査は桜美林大学の所在地である東京都町田市への通学が現実的であると考えられる、東京都および神奈川県内の各高等学校で実施していることから、調査結果の適性は充分に担保しているといえる。

グラフ 1-1　回答を得た高校生の性別

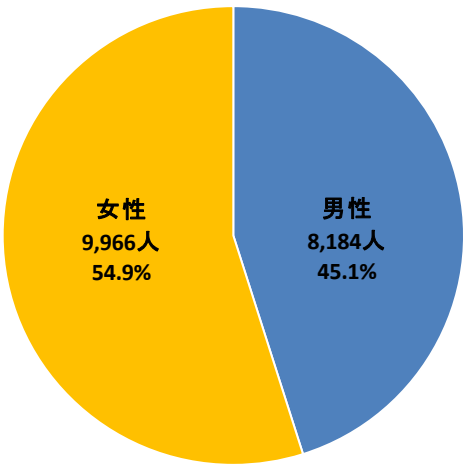
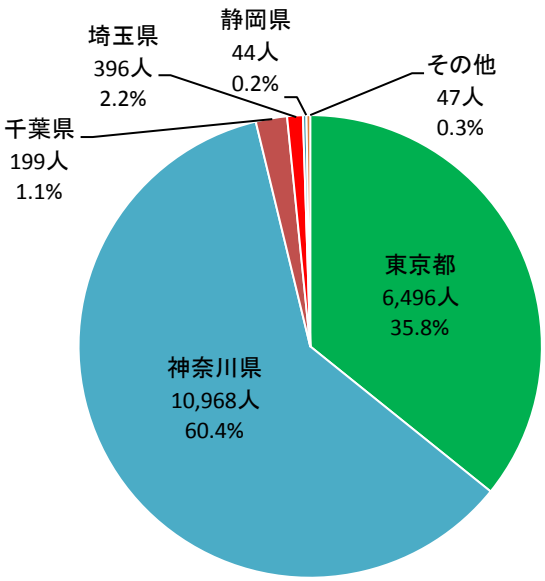


表 1-2　回答を得た高校生の居住地（構成比順）

選択項目	回答数	構成比
神奈川県	10,968	60.4%
東京都	6,496	35.8%
埼玉県	396	2.2%
千葉県	199	1.1%
静岡県	44	0.2%
その他	47	0.3%
無回答	0	0.0%
合計	18,150	100.0%

グラフ 1-3　回答を得た高校生の居住地



分析２

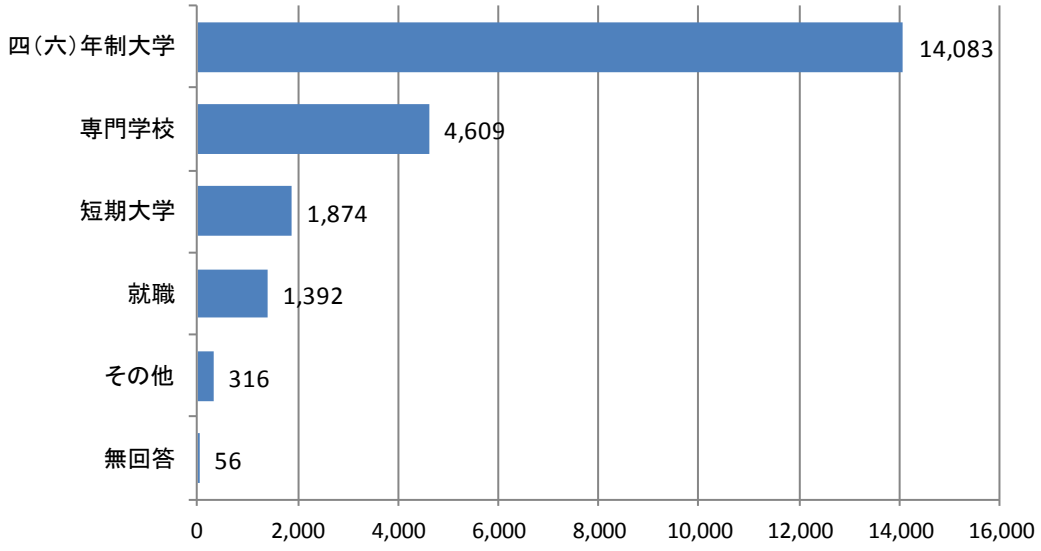
高校生における進学への考え方

高校２年生に、現在のところ興味のある高校卒業後の進路について複数選択で質問したところ、グラフ 2-1 が示す通り、回答を得た高校生 18,150 人のうち、もっとも多い回答は 77.6%にあたる 14,083 人が回答した「四（六）年制大学」であった。2 番目は 25.4%にあたる 4,609 人が回答した「専門学校」で、3 番目は 10.3%にあたる 1,874 人が回答した「短期大学」であった。

現在のところ興味のある分野について 1 番目から 3 番目までを質問し、各回答結果を合計したところ、グラフ 2-2・表 2-3 が示す通り、もっとも多い回答は「文学・歴史・心理」で 7,154 人（18,150 人のうち 39.4%）であった。2 番目は「経済・経営・ビジネス」で 6,440 人（同 35.5%）、3 番目は「教育・保育」で 5,685 人（同 31.3%）、4 番目は「外国語・国際関係」で 5,170 人（同 28.5%）であり、文系の分野が上位を占めた。

また、進学先を選択する際に重視することについて 1 番目から 3 番目までを質問し、上記と同様に各回答結果を合計したところ、表 2-4 が示す通り、もっとも多い回答は「学びたい学部・学科・コースがある」で 11,505 人（18,150 人のうち 63.4%）であった。2 番目は「自宅から通える」で 4,608 人（同 25. 4%）、3 番目は「就職に有利である」で 4,098 人（同 22.6%）であった。

グラフ 2-1　高校卒業後の希望進路



グラフ 2-2　高校生が興味のある分野　※1 番目～3 番目の合計（回答の多い順）

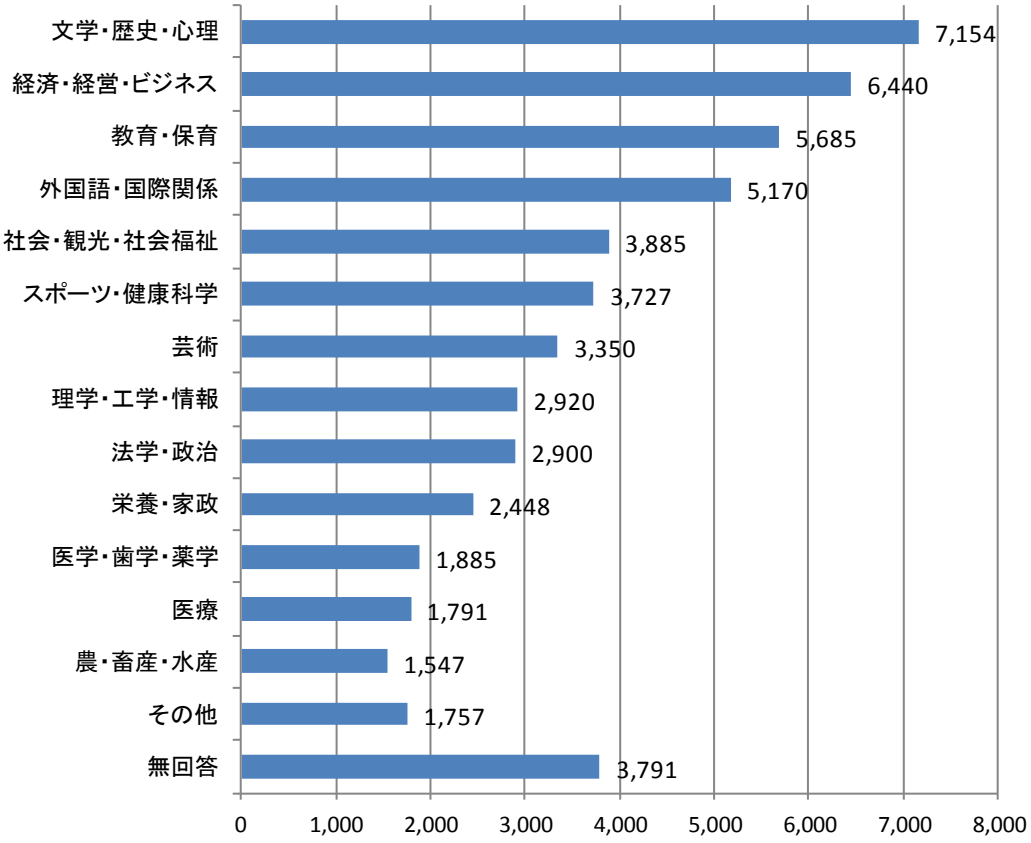


表 2-3　高校生が興味のある分野　※1 番目～3 番目の合計（構成比 20%以上の回答）

選択項目	回答数	構成比
文学・歴史・心理	7,154	39.4%
経済・経営・ビジネス	6,440	35.5%
教育・保育	5,685	31.3%
外国語・国際関係	5,170	28.5%
社会・観光・社会福祉	3,885	21.4%
スポーツ・健康科学	3,727	20.5%

※　構成比は回答を得た 18,150 人のうち、各項目を回答した割合。

表 2-4　高校生が進学先の選択において重視すること　※1 番目～3 番目の合計　（構成比順）

選択項目	回答数	構成比
学びたい学部・学科・コースがある	11,505	63.4%
自宅から通える	4,608	25.4%
就職に有利である	4,098	22.6%
自分の興味や可能性が広げられる	3,530	19.4%
専門分野を深く学べる	3,360	18.5%
学生生活が楽しめる	2,978	16.4%
学力レベルが自分に合っている	2,739	15.1%
将来の選択肢が増える	2,707	14.9%
校風や雰囲気がよい	2,432	13.4%
学費が安い	2,240	12.3%
卒業後に社会で活躍できる	2,237	12.3%
資格取得に有利である	2,234	12.3%
教育方針やカリキュラムが魅力的	1,986	10.9%
クラブ・サークル活動が盛ん	1,372	7.6%
学習施設や環境が整っている	1,252	6.9%
有名である	1,117	6.2%
国際的センスが身につく	961	5.3%
教育内容のレベルが高い	849	4.7%
伝統や実績がある	758	4.2%
入試方式が自分に合っている	511	2.8%
無回答	976	5.4%

※　構成比は回答を得た 18,150 人のうち、各項目を回答した割合。

分析３

構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への進学意欲

グラフ 3-1 が示す通り、回答を得た高校 2 年生 18,150 人のうち、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に「興味・関心をもった」と回答したのは 1,188 人（18,150 人のうち 6.5%）、「やや興味・関心をもった」と回答したのは 3,405 人（同 18.8%）であった。合計で本アンケートに回答した 18,150 人の 25.3%にあたる 4,593 人より、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に興味・関心を示す回答を得られた。

上記の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に興味・関心を示した 4,593 人を対象に、興味・関心をもった理由を複数回答で質問した。その結果、表 3-2 が示す通り、もっとも多かった回答は「もっと語学力を向上させたいから」で 2,297 人（4,593 人のうち 50.0%）が回答した。2 番目は「留学や異文化交流に興味をもっているから」で 1,887 人（同 41.1%）、3 番目は「様々な国や地域について深く学びたいから」で 1,365 人（同 29.7%）がそれぞれ回答した。

また、上記の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に興味・関心を示した 4,953 人には、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への受験意欲についても質問した。その結果、グラフ 3-3 が示す通り、「受験したい」と回答したのは 365 人（4,953 人のうち 7.9%）、「受験を検討したい」と回答したのは 1,113 人（同 24.2%）であった。合計で 1,478 人より「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への受験意欲を占めす回答を得られた。

さらに、この「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への受験意欲を示した 1,478 人を対象に、受験し合格した場合への進学意欲について質問した。その結果、グラフ 3-4 が示す通り、「進学したい」と回答したのは 502 人（1,478 人のうち 34.0%）、「併願大学の結果によっては進学したい」と回答したのは 665 人（同 45.0%）であった。合計で 1,167 人より、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への進学意欲を示す回答を得られた。

なお、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への興味・関心について「どちらともいえない」「興味・関心をもてなかった」、受験意欲について「どちらともいえない」「受験しない」をそれぞれ回答した 15,858 人を対象に、その理由を複数回答で質問したところ、表 3-5 が示す通り、「興味・関心のある学問分野がないから」がもっとも多く、5,964 人（15,858 人のうち 37.6%）が回答した。2 番目に「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」で 3,460 人（同 21.8%）、3 番目に「構想内容に魅力を感じないから」で 2,566 人（同 16.2%）であった。

グラフ 3-1　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）への興味・関心度

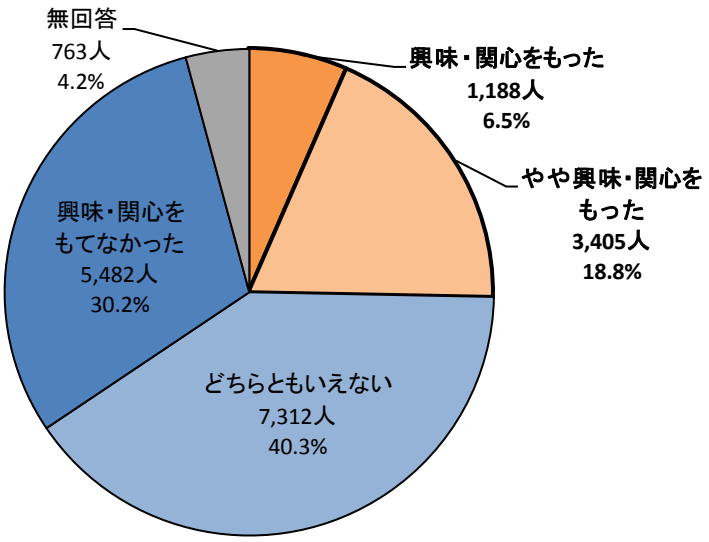
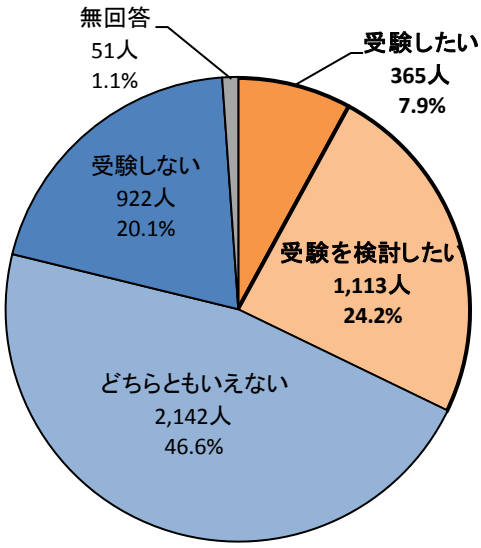


表 3-2　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）に興味・関心をもった理由

選択項目	回答数	構成比
もっと語学力を向上させたいから	2,297	50.0%
留学や異文化交流に興味をもっているから	1,887	41.1%
様々な国や地域について深く学びたいから	1,365	29.7%
将来、グローバルな規模で活躍できる人材になりたいから	1,101	24.0%
桜美林大学に興味をもっているから	296	6.4%
通学が便利であるから	178	3.9%
無回答	60	1.3%

※　構成比は回答を得た 4,953 人のうち、各項目を回答した割合。

グラフ 3-3　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）への受験意欲度



グラフ 3-4　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）への進学意欲度

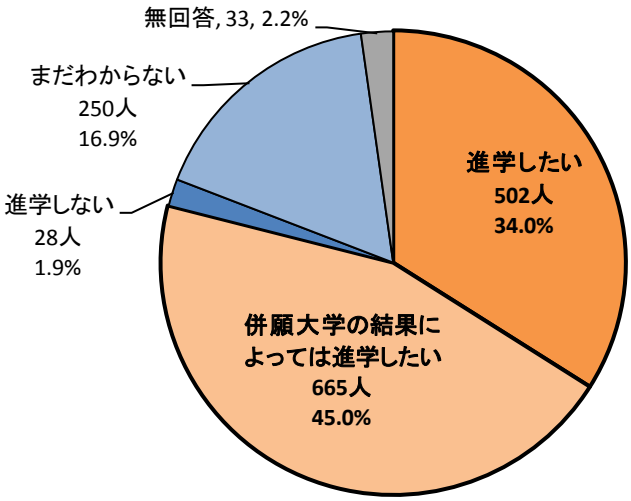


表 3-5　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）に興味・関心及び受験意欲をもたなかった理由（構成比順）

選択項目	回答数	構成比
興味・関心のある学問分野がないから。	5,964	37.6%
もっと詳しい情報を得た上で検討したいから。	3,460	21.8%
構想内容に魅力を感じないから。	2,566	16.2%
興味・関心のある学問分野はあるが、他大学への進学を検討したいから。	2,520	15.9%
自宅からの通学が不便そうだから。	1,407	8.9%
大学進学以外の進路を検討しているから。	1,317	8.3%
新設学科に進学するのは不安だから。	850	5.4%
その他	917	5.8%
無回答	3,137	19.8%

※　構成比は回答を得た 15,858 人のうち、各項目を回答した割合。

まとめ［調査結果におけるグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）への学生確保見通し］

本調査の回答結果より、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」における学生確保の見通しを考察する。

本調査は桜美林大学の既設学部の平成 24 年度から平成 26 年度の過去 3 年間において、志願実績の平均が 2 人以上あり、かつ桜美林大学の所在地である東京都町田市への通学が現実的に考えられる東京都と神奈川県内の高等学校 584 校のうち、期間内に高等学校の担当者と接触ができた 169 校を対象にアンケートの実施を依頼し、許可を得た 151 校に在籍している平成 26 年度の高校 2 年生 18,150 人より回答を得た。

前述の分析 3 でも説明しているが、問 8 の受験意欲の質問に対して、「受験したい」に 365 人、「受験を検討したい」に 1,113 人が回答していることから、アンケートを実施した 18,150 人のうち、最大で 1,478 人（365 人と 1,113 人の合計）が「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」への志願者となると予測できる。

表 A は問 8 の受験意欲と問 9 の進学意欲をクロス集計した表である。問 8 で桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に「受験したい」と回答した 365 人のうち、問 9 で受験し合格した場合に「進学したい」と回答した高校 2 年生は 287 人（アンケート回答者 18,150 人のうち 1.6%）であった。

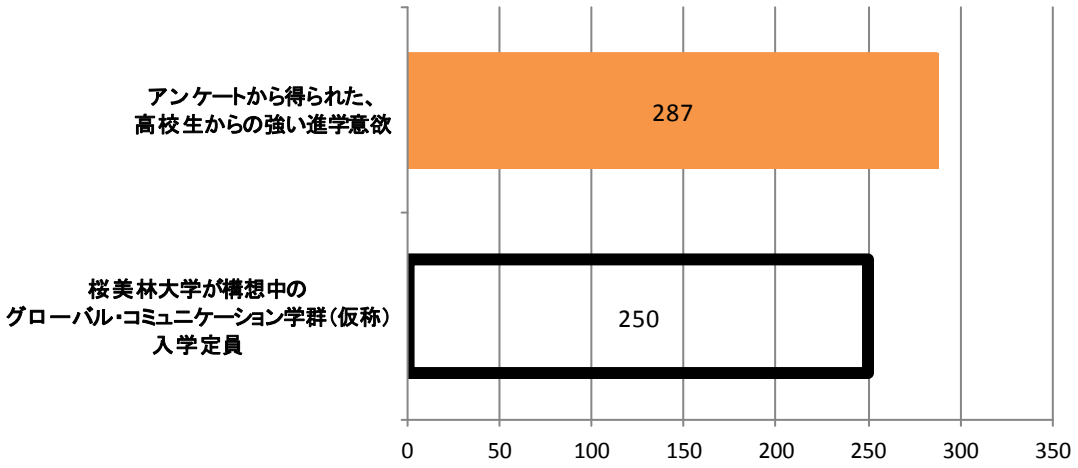
グラフ B が示す通り、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」が予定する定員 250 人に対して、強い進学意欲を示した回答は 287 人であり、本アンケートにおいて上回る回答を得ることができた。

また、この回答以外に、問 8 で「受験したい」と回答した 365 人のうち、問 9 で「併願大学の結果によっては進学したい」に 52 人が回答し、同様に問 8 で「受験を検討したい」と回答した 1,113 人のうち、問 9 で合格した場合に「進学したい」に 215 人、「併願大学の結果によっては進学したい」に 613 人がそれぞれ進学意欲を示す回答をしており、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」における志願者は、強い進学意欲を示した 287 人以上になると予測できる。

表 A　受験意欲と進学意欲のクロス集計

問 8 / 問 9	受験したい		受験を検討したい		総計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
進学したい	287	78.6%	215	19.3%	502	34.0%
併願大学の結果によっては進学したい	52	14.2%	613	55.1%	665	45.0%
進学しない	10	2.7%	18	1.6%	28	1.9%
まだわからない	13	3.6%	237	21.3%	250	16.9%
無回答	3	0.8%	30	2.7%	33	2.2%
合計	365	100.0%	1,113	100.0%	1,478	100.0%

グラフ B　強い進学意欲と入学定員の関係



以上、アンケートの結果より、桜美林大学が平成 28 年 4 月に設置構想中である「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」における学生確保の見通しは、全く問題がないと判断できる。

２章

人材需要の見通し調査（企業・団体等向けアンケート）

結　果

1. 人材需要の見通し調査（企業・団体等向けアンケート）の概要

◆調査の目的 ： 本調査は、桜美林大学が平成 28 年 4 月設置に向けて構想中のグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の卒業生の就職におけるニーズを、大学外の公正な第三者機関により事業所へのアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆調 査 期 間 ： 平成 26 年 12 月

◆調 査 対 象 ： 平成 28 年 4 月設置をめざすグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の卒業生の採用が期待できる団体として、桜美林大学既設学部における過去の就職実績がある各企業・団体の中で、関東 8 都県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、群馬県、茨城県、静岡県）に拠点を持つ 2,003 社・団体を対象とした。

【調査対象の詳細】

- 東 京 都：1,484 社・団体　（対象の 74.1%）
- 神奈川県：　334 社・団体　（対象の 16.7%）
- 埼 玉 県：　 58 社・団体　（対象の　2.9%）
- 千 葉 県：　 41 社・団体　（対象の　2.0%）
- 栃 木 県：　 11 社・団体　（対象の　0.5%）
- 群 馬 県：　 17 社・団体　（対象の　0.8%）
- 茨 城 県：　 22 社・団体　（対象の　1.1%）
- 静 岡 県：　 36 社・団体　（対象の　1.8%）

◆調 査 方 法 ： 調査対象とした 2,003 社・団体の採用ご担当者宛てに、桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の説明が入ったアンケート用紙を送付。回答後、返信を求めた。

◆調 査 内 容 ： アンケート項目は全 11 問で、9 問が選択肢式、2 問が記述式とした。
主な質問内容は、以下の通りである。

『企業・団体の基本情報』
『企業・団体が新卒生を採用する際に重視する点について』
『桜美林大学グローバル・コミュニケーション学グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の卒業生の採用見込みについて』

◆回 収 件 数 ： 460 件　（依頼件数　2,003 件　／　回収率　23.0%）

2. 人材需要の見通し調査（企業・団体等向けアンケート）
全質問項目の集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

27～36 ページは、企業・団体向けアンケートで回答を得た 460 社・団体の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1　貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 農林漁業	4	0.9%
2. 鉱業	0	0.0%
3. 建築業	13	2.8%
4. 製造業	37	8.0%
5. 電気・ガス・熱・水道業	4	0.9%
6. 情報通信業	68	14.8%
7. 運輸業	31	6.7%
8. 卸売・小売業	123	26.7%
9. 金融・保険業	21	4.6%
10. 不動産業	22	4.8%
11. 飲食・宿泊業	31	6.7%
12. 医療・福祉	12	2.6%
13. 教育・学習支援業	4	0.9%
14. 複合サービス業	47	10.2%
15. 公務・その他	43	9.3%
（無回答）	0	0.0%
合計	460	100.0%

問2　貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 東京都	320	69.6%
2. 神奈川県	74	16.1%
3. 埼玉県	21	4.6%
4. 千葉県	12	2.6%
5. 栃木県	6	1.3%
6. 群馬県	2	0.4%
7. 静岡県	8	1.7%
8. その他	17	3.7%
（無回答）	0	0.0%
合計	460	100.0%

問3　貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 50人以下	50	10.9%
2. 51～100人	43	9.3%
3. 101～500人	155	33.7%
4. 501人～1，000人	84	18.3%
5. 1，001人以上	128	27.8%
（無回答）	0	0.0%
合計	460	100.0%

問4　新卒生を採用する際に、求める能力・体験等をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した 460 社・団体のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
1. コミュニケーション能力	432	93.9%
2. 基礎的な学力	222	48.3%
3. 専攻学問の専門的な知識	26	5.7%
4. 語学力	49	10.7%
5. 考え抜く力	193	42.0%
6. 前に踏み出す力	169	36.7%
7. 目的達成志向	109	23.7%
8. 適応力	89	19.3%
9. インターンシップ経験	0	0.0%
10. ボランティア経験	0	0.0%
11. 忍耐力	31	6.7%
12. 理解力	13	2.8%
13. 論理力	4	0.9%
14. 取得資格・免許	4	0.9%
15. その他	5	1.1%
（無回答）	0	0.0%

問5　貴社・貴団体のグローバルな事業展開についてお答えください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. グローバルな事業展開について、すでに展開している	170	37.0%
2. グローバルな事業展開について、今はないが今後展開する可能性はある	174	37.8%
3. グローバルな事業展開について、全くない	95	20.7%
4. よくわからない	20	4.3%
（無回答）	1	0.2%
合計	460	100.0%

問6　桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」が育成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. ニーズは極めて高い	144	31.3%
2. ニーズはある程度高い	262	57.0%
3. ニーズは高くない	13	2.8%
4. どちらとも言えない	40	8.7%
（無回答）	1	0.2%
合計	460	100.0%

問7　桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」の特色について評価できる点をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した 460 社・団体のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
1. 実践的な語学教育で語学力を向上させる。	194	42.2%
2. 語学力とともに、コミュニケーションスキルを修得できる。	346	75.2%
3. 留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、グローバルに協働できるリーダーシップを養う。	247	53.7%
4. 文化が異なる多くの留学生達とともに、授業を英語や中国語で学ぶ。	86	18.7%
5. 入学者全員が海外の留学提携校へ留学する。	70	15.2%
6. その他	4	0.9%
（無回答）	3	0.7%

問8　貴社・貴団体が桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に期待すること、求めることは何かお聞かせください。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 専門的知識・技術に係る資質・素養を備えている人材を養成すること	30	6.5%
2. 幅広い知識・教養を身につけている人材を養成すること	93	20.2%
3. 何事も積極的に取り組む行動力がある人材を養成すること	211	45.9%
4. 礼儀作法を知り、常識的振る舞いができる人材を養成すること	22	4.8%
5. 周囲とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材を養成すること	99	21.5%
6. 様々な資格・免許を有している人材を養成すること	1	0.2%
7. その他	1	0.2%
（無回答）	3	0.7%
合計	460	100.0%

問9　貴社・貴団体では、桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」で学び卒業した学生を、将来採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つに○）

選択項目	回答数	構成比
1. 採用したい	140	30.4%
2. 採用を検討したい	180	39.1%
3. どちらともいえない	134	29.1%
4. 採用したいと思わない	5	1.1%
（無回答）	1	0.2%
合計	460	100.0%

以下の問 10 は、問9で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」を選択した 320 社・団体が回答対象である。

問10　採用したいと回答した場合、採用可能と思われる人数をご記入ください。

※ 記入があった人数を以下の表にまとめた。

※ 問9の「採用したい」「採用を検討したい」の回答別に集計した。

選択項目	採用したい		採用を検討したい		総計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
「1人」と回答	19	13.6%	62	34.4%	81	25.3%
「2人」と回答	33	23.6%	42	23.3%	75	23.4%
「3人」と回答	16	11.4%	11	6.1%	27	8.4%
「4人」と回答	1	0.7%	0	0.0%	1	0.3%
「5人」と回答	25	17.9%	13	7.2%	38	11.9%
「10人」と回答	9	6.4%	2	1.1%	11	3.4%
「15人」と回答	2	1.4%	0	0.0%	2	0.6%
「若干名」と回答	3	2.1%	6	3.3%	9	2.8%
「未定」と回答	14	10.0%	15	8.3%	29	9.1%
（無回答）	18	12.9%	29	16.1%	47	14.7%
合計	140	100.0%	180	100.0%	320	100.0%

問11　桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に対して、ご意見・ご要望などありましたらご自由にお書きください。

※　88 社・団体から回答を得た。以下、業種別に回答内容を掲載する。

【業種別・回答内容】

業種	回答内容
農林漁業	弊社は農業分野に突出した卸・小売業。世界各国の農業を知識として備えている人材を募集しています。
建築業	大変素晴らしい主旨で制度化計画されましたが、グローバルコミュニケーション卒業生が中小企業に就職する確率は稀ではないかと懸念します。インターンシップ制度のような応用例として3，4年生が中小企業へ来て実情を見る、体験するような試みがご考慮頂ければ幸いです。
製造業	海外勤務にも、積極的に取り組める人材の育成を希望いたします。
製造業	グローバル展開が進む中で、積極性、自発性をもって行動でき、周りの協力を得ながら課題解決できる人財の育成に期待いたします。
製造業	海外での業務もあるため、今後弊社でも積極的に採用していきたいと思っております。
製造業	期待しております。よろしくお願い申し上げます。
製造業	留学は3年次で半年以上の期間が必要と考えます。
電気・ガス・熱・水道業	単に外国語が話せる学生ではなく、日本の文化・歴史・経済状況に精通し、堂々と外国の方と会話のできる、真のグローバル人材を期待いたします。
電気・ガス・熱・水道業	グローバルな思考も大切ですが、リベラルアーツも社会的には求められる分野だと思います。こちらも疎かにならないよう期待いたします。
情報通信業	今後ともよろしくお願いいたします。
情報通信業	情報メディア社会の発展に関するテーマについても学べるとよいかと思います。
情報通信業	今まで「人材」と呼ばれていた人達に語学力を付加しただけ、という印象を持ちます。語学力があっても「話題」がないとコミュニケーションは始まりません。
情報通信業	弊社の取り組みは、海外（特にアジア、アメリカ）に進出しておりまして、現地での人材確保の為の言語スキル、商談スキルが求められていて、そういう学生を採用していきたいと思っております。
情報通信業	ぜひ、世の中に良い人材を提供していただきたい。
情報通信業	貴校の取り組みは多様化するビジネスシーンを考えると非常に楽しみであり、期待いたします。
情報通信業	幅広い知識と教養を身につけた学生を社会に輩出していただきたいと思います。
情報通信業	弊社は未経験の学生でも採用をしておりますので、良い方がいらっしゃれば何名でも採用できます。
情報通信業	他国との学生と接することにより、日本人特有の主張できない、多数派、といった考えを捨て、自己主張、自分の考えをしっかり持てるようにしていただきたい。
情報通信業	採用のミスマッチがなくなるとよいですね。海外のハングリー精神を学ぶ日本人が増えるのはいいことです。
運輸業	グローバルの流行する現代で、語学力や留学経験にばかり目が向き先走っているが、要は個人がその経験から“何を得たのか”を採用試験では問わせていただきたい。

運輸業	語学はあくまでツールです。語学バカを育ててはいけません。日本人としてまずバランスのとれた人材を育ててください。
運輸業	2020 年に東京でのオリンピックが開催されるにあたって、語学力やコミュニケーション力の向上は必須だと思われます。こういった部分に長けている人材を育成していただきたいです。
運輸業	柔軟な対応のできる人財を期待しています。よろしくお願いいたします。
運輸業	語学のみに重点をおいて、中身のない（日本の歴史・文化・教養のないような）人材を育て社会に出すようなことのないように常に留意お願いいたしたい。
運輸業	語学はコミュニケーションの手段であり、質の高いコミュニケーションをとれる人材は結局は人間性や人物の深さだと思うので単に語学を極めるだけにとどまらない貴校のグローバルコミュニケーション学群に期待するところは大きいと思います。
運輸業	将来（近未来）、外国人労働者の採用を考えております。その際に必要なグローバルコミュニケーション能力の育成に期待します。
運輸業	何を具体的に学ばれているかわかる学部・学科だと助かります。（グローバルとかコミュニケーション、ネットワークなどわかりづらい）
運輸業	問10につきまして、良い人材であれば、許す限り採用したいと思います。
卸売・小売業	社会人として働くことにも人間関係にも前向きに取り組む人材に育ってほしいです。
卸売・小売業	グローバルコミュニケーションの定義を明確にし学生にも自覚と就活で言える力をつけてあげて欲しいです。
卸売・小売業	専門性だけでなく、ゼネラリストとしての視野も育てていただきたいと思います。
卸売・小売業	現在のところ基本的に新卒採用ではルート営業職（国内）のみの募集なので、弊社としてはグローバルに活躍できる語学力はさほど求めていません。しかし、文化の異なる人々と過ごす経験は、社会に出て様々なタイプの同僚やお客様とうまくコミュニケーションをとれる能力につながると思うので、語学力というよりもコミュニケーション能力に対して期待しています。弊社だけでなく、全体的なことでいうと、リーダーシップ、コミュニケーション、語学、いずれの資質もそなえていれば、非常に重宝される人材になると思います。
卸売・小売業	期待します。
卸売・小売業	現在の当社はまだまだグローバルな事業展開をしていないので十分に活かせるかと言われると難しい部分もございますが、将来的にはと存じておりますので、一緒に会社を造って頂きたく思います。
卸売・小売業	海外志向の学生が減少傾向と聞いたことがありますが、世界に通用する人材が出ることを楽しみにしております。
卸売・小売業	日常会話のみならず、実践で語学力を発揮できる人材を育てていただけましたら、弊社も積極的に採用させていただきたいと思いました。これからも何卒よろしくお願いいたします。
卸売・小売業	会話ができるだけでコミュニケーション能力にはならない。日本企業・外資でどう働けるかは本人の資質の問題。そこが伸ばせるか。
卸売・小売業	グローバル人材は何よりもアウェー地でのメンタルの強さや、セルフコントロール力が要求されると感じております。語学力や資格取得以上にその部分の強化育成をして頂ければと強く希望いたします。
卸売・小売業	問 10 の人数ですが、適性があえば、人数は何人でも大丈夫です。

卸売・小売業	国や文化を越えたグローバル社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成するという教育は将来の企業のあり方を考えた場合は非常に重要だと思います。
卸売・小売業	構想は理解できるが、この程度の留学では中途半端な語学の学生を卒業させることになるだろう。社会人になってからこの経験を生かせるような長期スパンで考えた教育をして欲しい。
卸売・小売業	全員が留学できることはとても良いと思います。
卸売・小売業	弊社では、語学力を必要とする業務はまだありませんが、語学を学ぶ上でのコミュニケーションスキル、積極性や適応力の向上などには、期待するものがあります。
卸売・小売業	個人的に私も2年間の海外での生活を経験しましたが、異文化に触れることによって、様々な価値観を持てるようになることは非常に重要なことだと思います。ただ語学力を身につけるだけでなく、幅広い知識・教養・積極性・コミュニケーション能力などを持ち合わせた学生の育成を期待しております。
卸売・小売業	成果を期待いたします。
卸売・小売業	問8はすべて〇をつけたいところです。ポテンシャルの高い学生の養成・輩出をお願いいたします。
卸売・小売業	実践・自立・自力のある人材の育成を望みます。
卸売・小売業	「卒業までに（あるいは３年進級時に）TOEIC〇〇点」のような目標があると良いと思います。
卸売・小売業	今の学生には国際関係の学部（学郡）は人気があると思います。
卸売・小売業	リベラルアーツの更なる深耕をした、奥行のある人材を育成していただきたい。
卸売・小売業	今後、語学やリーダーシップを求める声は増えると思います。一方で、企業内部のグローバル化はまだ時間がかかるため、バランス良い人材が望まれるのではないでしょうか。これからもよろしくお願いします。
卸売・小売業	今後、語学力と同様にコミュニケーション能力の高い人材が会社、社会を牽引していくと考えます。是非設置を実現していただきたいです。
卸売・小売業	積極的な行動力を期待しております。良い人材がいらっしゃれば、採用させていただきたく存じます。
卸売・小売業	将来を担う人材を育まれることを期待いたします。
金融・保険業	言葉を話せるだけではグローバル人材とは言い難く、海外に行って尊敬される人にはならないと思います。日本人としての文化的精神的背景、哲学の習得が必要かと思われます。
金融・保険業	幅広い知識や広い視野を持ち、かつコミュニケーション能力の優れた人材は今後ますます社会で活躍する機会が増えてくるものと思います。貴校の取り組みに期待しております。
金融・保険業	グローバルな考え方、積極的に取り組むことのできる人材を育ててもらいたい。
不動産業	貴校卒業者が2名在籍しており、入社予定の内定者も2名おります。当社も英語圏と台湾へ現地法人を立ち上げていますので、更なる学生の成長を期待しております。
不動産業	よろしくお願いいたします。
不動産業	是非、開設を楽しみにしております。

不動産業	叶うなら、教育現場を見学したい。
不動産業	弊社では顧客拡大により英語・中国語圏内での採用に注力しております。今後、具体的な使用言語に特化して学生の方をご紹介頂ける機会がありましたら、是非、よろしくお願いいたします。
飲食・宿泊業	是非、今後の国際化を担っていけるような人材を育ててください。
飲食・宿泊業	グローバルな事業展開が具体化したとき、採用を考えたい。
飲食・宿泊業	どのような学生と出会えるのか楽しみです。
飲食・宿泊業	語学力に期待します。
飲食・宿泊業	いつでもご応募をお待ちしております。
飲食・宿泊業	海外展開にあたり、東南アジア市場の開拓を計画中。英語・フランス語など、多国籍公用語は今後、当社では必須のスキルとして求めてゆくであろうと考えています。
飲食・宿泊業	貴校から多くの出身者が入社、活躍をしております。今後もさらなる発展を祈っております。
医療・福祉	コミュニケーション能力の優れた学生は弊社において営業職や事務職のみならず、海外商品の仕入れや今後展開されるアジア諸国への輸出においても活躍が期待できると思います。
医療・福祉	まだ当社にはマッチングができる業務がないが、その経験を活かして活躍できる人材雇用ができれば良いと考えます。
医療・福祉	優秀な人材育成に特化されることに共感を覚えます。ぜひとも世界で通用される方の輩出を望んでおります。
教育・学習支援業	この学部はまるで会社に入社する為の訓練をする学部のように思われます。大学とはいったい何か、もう一度考え直したほうがいいです。
複合サービス事業	どのような職種であっても、コミュニケーション能力は必要だと思います。ただそれを有するのは難しいですが、最も大事なことと思っています。人材育成に期待しています。
複合サービス事業	弊社の展開している海外事業はもちろんのこと、国内における事業においても、高いコミュニケーション能力は必要とされます。海外の方との交流を通じて様々なことに興味を持って積極的に挑戦する人材は非常に興味があります。
複合サービス事業	他校との違い（カリキュラムの特長など）を分かりやすく発信して欲しい。
複合サービス事業	素直な気持ちで、なんでもやってみよう、という人材を育成して頂ければ社会貢献できる人材を多数輩出できると思います。どうぞよろしくお願いいたします。
複合サービス事業	可能な限り実践型の人材教育をお願い申し上げます。
複合サービス事業	学んできたことより、人間性重視であるため、問 10 で人数をお答えすることはできません。
複合サービス事業	海外展開を来年度より始めますので、興味があります。
複合サービス事業	昨今では、コミュニケーションスキルの低下がうかがえるようになってきました。クライアントに対してだけでなく、社内的にもです。協力的な仕事を好む一方でコミュニケーションは苦手という矛盾を打開していただけるよう期待しております。
公務・その他	今後、グローバル展開をする企業は増えていくことと思いますので、「グローバル・コミュニケーション学群」もニーズのある学問かと存じます。

公務・その他	日本の風土・文化をベースに多様性豊かな発想力と人間力を養ってください。
公務・その他	人として基礎的な能力（親が本来教えるような事）を、育ててください。
公務・その他	弊社の採用は専門職のみになりますが、総合職での需要は高いと思います。
公務・その他	採用に関しては明確な意見ができずに大変申し訳ございません。貴校の新設の学部にとても興味が湧きました。英語・中国語・日本語どれの語学でも構いませんので会話力・質問力を身につけた学生を多く輩出してくださることに期待しております。
公務・その他	将来のリーダーになるためには、リーダーシップとコミュニケーション能力だけでは不足であり、管理能力や論理力も必要である。
公務・その他	今後ともよろしくお願いいたします。

3. 人材需要の見通し調査（企業・団体等向けアンケート） 集計結果分析

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

分析 1

回答を得た企業・団体の基本情報

本調査は桜美林大学が計画中のグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の卒業生の採用が予想できる企業・団体として、関東 8 都県にある桜美林大学既設学部の採用実績のある 2,003 社・団体にてアンケートを実施し、460 社・団体より回答を得た。グラフ 1-1 が示す通り、最も多く回答を得た業種は「卸売・小売業」で 123 社・団体（460 社・団体のうち 26.7%）であった。2 番目は「情報通信業」で 68 社・団体（同 14.8%）、3 番目は「複合サービス業」で 47 社・団体（同 10.2%）であった。「鉱業」以外の業種は少数ながら回答があり、幅広い業種より回答を得ることができた。

表 1-2 が示す通り、回答を得た企業・団体の所在地としてもっとも多かったのは「東京都」で 320 社・団体（460 社・団体のうち 69.6%）、2 番目は「神奈川県」で 74 社・団体（同 16.1%）、3 番目は「埼玉県」で 21 社・団体（同 4.6%）であった。また、回答の設定に茨城県がなかったため、「その他」と回答した 17 社・団体はすべて「茨城県」である。

グラフ 1-3 が示す通り、回答を得た企業・団体を従業員規模別で見たところ、もっとも多い回答は「101 人～500 人」で 155 社・団体（460 社・団体のうち 33.75）であった。2 番目は「1,001 人以上」で 128 社・団体（同 27.8%）、3 番目は「501 人～1,000 人」であった。その他に、「50 人以下」に 50 社・団体（10.9%）、「51 人～100 人」に 43 社・団体（9.3%）が回答しており、幅広い従業員規模の企業・団体から回答を得ることができた。

グラフ 1-1　回答を得た企業・団体の業種（回答数の多い順）

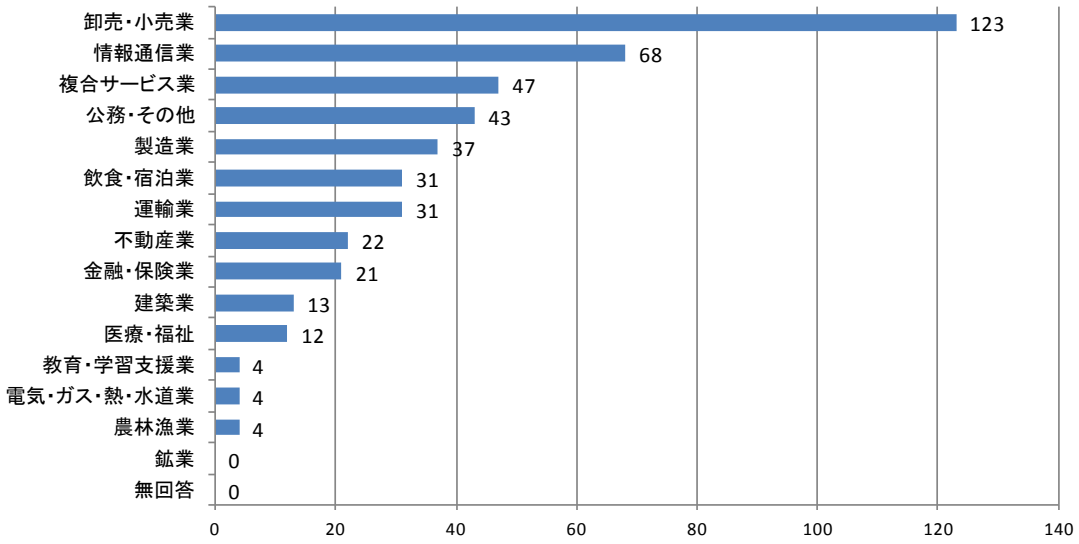
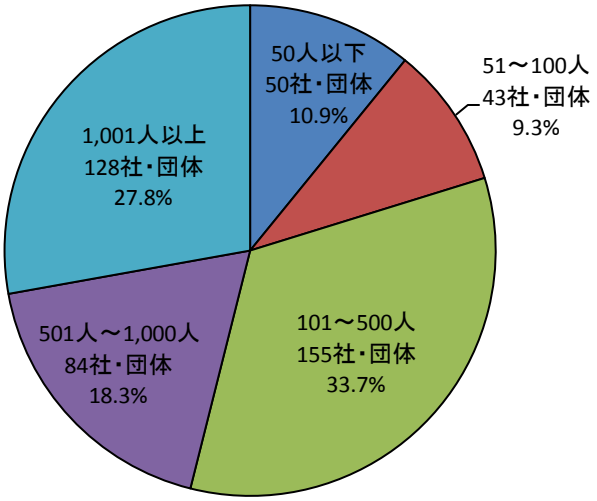


表 1-2　回答を得た企業・団体の所在地（構成比順）

選択項目	回答数	構成比
東京都	320	69.6%
神奈川県	74	16.1%
埼玉県	21	4.6%
千葉県	12	2.6%
静岡県	8	1.7%
栃木県	6	1.3%
群馬県	2	0.4%
その他	17	3.7%
無回答	0	0.0%
合計	460	100.0%

グラフ 1-3　回答を得た企業・団体の従業員規模



分析２

回答を得た企業・団体における新卒生採用の重視する点とグローバルな事業展開

企業・団体に新卒生採用の際に、求める能力や体験を複数回答で質問した。表 2-1 が示す通り、もっとも多く回答があったのは 460 社・団体のうち 93.9%にあたる 432 社・団体が回答した「コミュニケーション能力」であった。2 番目は 48.3%にあたる 222 社・団体が回答した「基礎的な学力」で、3 番目は 42.0%にあたる 193 社・団体が回答した「考え抜く力」であった。

各企業・団体にグローバルな事業展開について質問したところ、グラフ 2-2 が示す通り、460 社のうち 37.0%にあたる 170 社・団体が、「すでに展開している」と回答した。また、「今はないが今後展開する可能性はある」に 174 社・団体（同 37.8%）、「全くない」に 95 社（同 20.7%）、「よくわからない」に 20 社・団体（同 4.3%）がそれぞれ回答した。本調査は、グローバルな事業展開を行っているもしくは可能性があると回答した企業・団体が全体の 74.8%も占める回答を得られた。

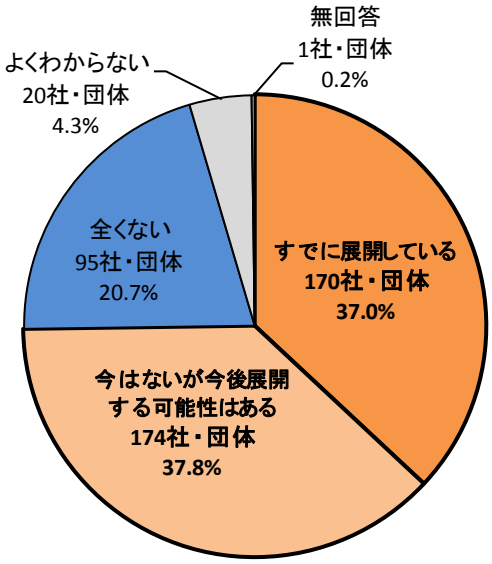
表 2-1　企業・団体が新卒生採用で重視していること（回答順）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した 460 社・団体のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
コミュニケーション能力	432	93.9%
基礎的な学力	222	48.3%
考え抜く力	193	42.0%
前に踏み出す力	169	36.7%
目的達成志向	109	23.7%
適応力	89	19.3%
語学力	49	10.7%
忍耐力	31	6.7%
専攻学問の専門的な知識	26	5.7%
理解力	13	2.8%
論理力	4	0.9%
取得資格・免許	4	0.9%
インターンシップ経験	0	0.0%
ボランティア経験	0	0.0%
その他	5	1.1%
無回答	0	0.0%

グラフ 2-2　企業・団体のグローバルな事業展開について



分析３

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）への評価

グラフ 3-1 が示す通り、回答を得た企業・団体のうち、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」が育成する人材への社会的ニーズについて質問したところ、「ニーズは極めて高い」に 144 社・企業（460 社・団体のうち 31.3%）、「ニーズはある程度高い」に 262 社・団体（同 57.0%）と回答した。合計すると 88.3%にあたる 406 社・団体が、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」が育成する人材に対して社会的ニーズが高いと回答している。

各企業・団体に桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の特色について評価できる点を複数選択で質問したところ、表 3-2 が示す通り、もっとも多い回答は「語学力とともに、コミュニケーションスキルを修得できる。」で、75.2%にあたる 346 社・団体が回答した。2 番目は「留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、グローバルに協働できるリーダーシップを養う。」で 53.7%にあたる 247 社・団体、3 番目は「実践的な語学教育で語学力を向上させる。」で 42.2%にあたる 194 社・団体であり、以上の 3 つに回答が集中する結果となった。

また、各企業・団体に桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」に期待すること、求めることを質問したところ、表 3-3 が示す通り、もっとも多い回答は「何事も積極的に取り組む行動力がある人材を養成すること」で 211 社・団体（460 社・団体のうち 45.9%）であった。2 番目は「周囲とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材を養成すること」で 99 社・団体（同 21.5%）、3 番目は「幅広い知識・教養を身につけている人材を養成すること」で 93 社・団体（同 20.2%）であり、以上の 3 つに回答が集中する結果となった。

グラフ 3-1　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）が育成する人材への社会的ニーズ

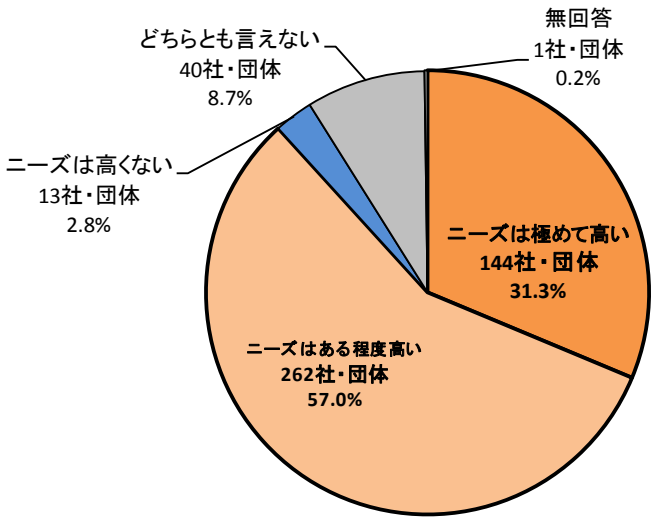


表 3-2　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）の特色で評価できる点（回答数順）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答した 460 社・団体のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目	回答数	構成比
語学力とともに、コミュニケーションスキルを修得できる。	346	75.2%
留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、グローバルに協働できるリーダーシップを養う。	247	53.7%
実践的な語学教育で語学力を向上させる。	194	42.2%
文化が異なる多くの留学生達とともに、授業を英語や中国語で学ぶ。	86	18.7%
入学者全員が海外の留学提携校へ留学する。	70	15.2%
その他	4	0.9%
無回答	3	0.7%

表 3-3　グローバル・コミュニケーション学群（仮称）に期待すること、求めること（回答数順）

選択項目	回答数	構成比
何事も積極的に取り組む行動力がある人材を養成すること	211	45.9%
周囲とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材を養成すること	99	21.5%
幅広い知識・教養を身につけている人材を養成すること	93	20.2%
専門的知識・技術に係る資質・素養を備えている人材を養成すること	30	6.5%
礼儀作法を知り、常識的振る舞いができる人材を養成すること	22	4.8%
様々な資格・免許を有している人材を養成すること	1	0.2%
その他	1	0.2%
無回答	3	0.7%
合計	460	100.0%

分析４

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）への評価

グラフ 4-1 が示す通り、回答を得た 460 社・団体のうち、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」で学び卒業した学生を、「採用したい」と回答したのは 140 社・団体（460 社・団体のうち 30.4%）、「採用を検討したい」と回答したのは 180 社・団体（同 39.1%）であった。合計すると 69.6% にあたる 320 社・団体より、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の卒業生の採用について、意欲を示す回答を得られた。

さらに、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の卒業生の採用に意欲を示した 320 社・団体に、採用可能と思われる人数について記入を求めた。その結果、表 4-2 およびグラフ 4-3 が示す通り、前述の桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」で学び卒業した学生を「採用したい」と回答した 140 社・団体のうち人数を記入したのは 105 社・団体であった。105 社・団体が記入した人数すべてを合計すると「382 人」となり、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」が予定する定員 250 人を本調査にて大きく上回る回答を得られた。同様に「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」で学び卒業した学生の「採用を検討したい」と回答した 180 社・施設のうち 130 社・団体が人数を記入しており、その合計は「264 人」となった。

本調査はアンケートを回収した 460 社・団体のみの数値である。また、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の第一期生卒業予定は平成 31 年度（平成 32 年 3 月）の予定であり、その際には採用を対象とする企業・団体は本調査対象数よりも多いと考えられる。したがって、桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」卒業生の人材需要の見通しは問題ないと予測できる。

グラフ 4-1　企業・団体におけるグローバル・コミュニケーション学群（仮称）への採用意欲

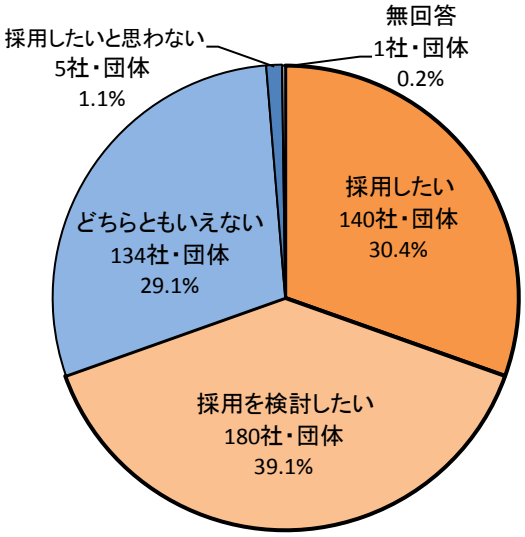


表 4-2　企業・団体におけるグローバル・コミュニケーション学群（仮称）卒業生の採用予定人数

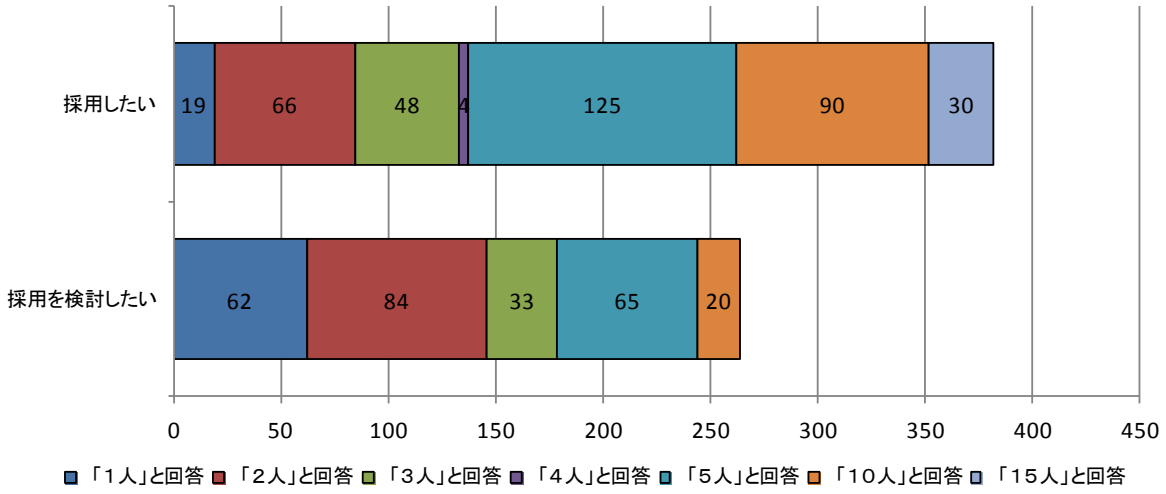
選択項目	採用したい		採用を検討したい		総計	
	回答数	採用可能な人数	回答数	採用可能な人数	回答数	採用可能な人数
「1人」と回答	19	19 人	62	62 人	81	81 人
「2人」と回答	33	66 人	42	84 人	75	150 人
「3人」と回答	16	48 人	11	33 人	27	81 人
「4人」と回答	1	4 人	0	0 人	1	4 人
「5人」と回答	25	125 人	13	65 人	38	190 人
「10人」と回答	9	90 人	2	20 人	11	110 人
「15人」と回答	2	30 人	0	0 人	2	30 人
「若干名」と回答	3	0 人	6	0 人	9	0 人
「未定」と回答	14	0 人	15	0 人	29	0 人
無回答	18	0 人	29	0 人	47	0 人
合計	140	382 人	180	264 人	320	646 人

※　問9の質問で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 320 社・団体の記述回答の結果。

※　採用可能な人数は回答数と記述回答を算出した値。

※　「若干名」「未定」および「無回答」については、人数を 0 人に設定している。

グラフ 4-3　企業・団体におけるグローバル・コミュニケーション学群（仮称）卒業生の採用予定人数



以上、アンケートの結果より、桜美林大学が平成 28 年 4 月に設置構想中である「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」における人材需要の見通しは、全く問題がないと判断できる。

【添付資料①②】

おうびりんだいがく

桜美林大学

グローバル・コミュニケーション学群（仮称）
グローバル・コミュニケーション学類（仮称）

設置構想についての高校生アンケート調査

（対象： 2014年11月現在、高校2年生の皆さん）

２０１６（平成２８）年４月に、桜美林大学が「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の新設を構想しています。

桜美林大学では、このアンケート調査の中で皆様の進路についての率直な考えをお聞きすることにより、構想中である新設学群の教育内容等に反映したいと考えています。

なお、皆様より得られた情報は、桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用させていただき、個人の情報として扱うことは一切ございません。

以上の趣旨を踏まえ、アンケート調査にご支援下さいますよう、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は桜美林大学から委託された第三者機関
（株式会社紀伊國屋書店及び株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

質問数： 10 問　（所要時間は5～10分程度です）

2016年4月、桜美林大学で開設予定。グローバルリーダーシップを身につける。

グローバル・コミュニケーション学群 グローバル・コミュニケーション学類（仮称）

設置構想中

概要

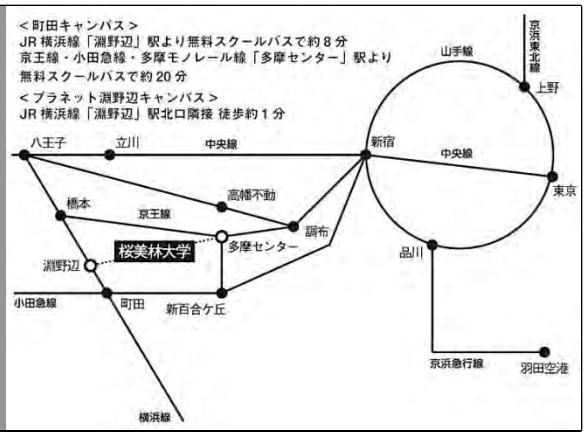
■開設時期：2016年4月（予定）

■名　　称：グローバル・コミュニケーション学群 グローバル・コミュニケーション学類（仮称）

■入学定員：250人（収容定員1,000人）

■場　　所：東京都町田市常盤町3758

大学までのアクセス



養成する人材像

語学に長け、コミュニケーション能力が高く、分析や創造を伴う思考力と、問題解決に向けた計画力や実行力を有し、国や文化を越えたグローバルな協働のために、リーダーシップを発揮できる人材を養成する。

教育の特徴

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称） 4つのコンセプト

語学

基礎から始め、書く、話す、読む、書く等のスキルに応じた語学力向上とともに、コミュニケーションスキルも修得する。

リーダーシップ

知識、技能、教養を高めた後、留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、グローバルに協働できるリーダーシップを養う。

グローバル・スタディーズ

「日本の文化や社会の理解」と「グローバル社会に向けた共生と発展」について、言語や文化が異なる多くの留学生達とともに英語や中国語で学ぶ。

留学

全員が2年次後期または3年次前期から半年間、学修テーマにあった米国・中国をはじめとする世界各地の留学提携校へ留学する。

1年次	2年次		3年次	4年次
【実践的な語学教育】 【教養】	【実践的な語学教育】 【日本の文化・社会への理解】	【海外留学】	【グローバル社会の発展に関するテーマ】 【インターンシップ】 【グローバル・リーダーシップ教育】	

・海外留学は3年次前期を選ぶこともできます。

・授業は、日本語、英語、中国語で行います。

卒業後の進路

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類(仮称)卒業後は、以下の進路が予想されます。

1. グローバル企業、国際機関、外資系企業、商社
2. 金融業、製造業、サービス業
3. 教育機関、公務員

上記以外にも語学やコミュニケーション力、リーダーシップが発揮できる分野での活躍が期待されます。

学費（他大学との比較）

（単位：円）

大学名（学部名）	入学金	授業料	施設設備費等	初年次学費
桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群（仮称）	**100,000**	**914,000**	**300,000**	**1,314,000**
早稲田大学　［東京都新宿区］ 国際教養学部	200,000	1,158,000	250,000	1,608,000
法政大学　［東京都千代田区］ グローバル教養学部	180,000	1,040,000	232,000	1,452,000
東洋学園大学［東京都文京区］ グローバル・コミュニケーション学部	300,000	900,000	200,000	1,400,000
フェリス女学院大学　［神奈川県横浜市］ 国際交流学部	300,000	710,000	300,000	1,310,000

※桜美林大学の学費は予定です。また、他の大学は2014年度の学費となります。

注：上記の内容は、設置準備段階の構想であり、変更になる場合があります。

あなたの性別および居住地について教えてください。

問1 **あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つに○）**

1.　男性　　2.　女性

問2 **あなたの居住地を教えてください。（あてはまるもの1つに○）**

1.　東京都　　2.　神奈川県　　3.　千葉県
4.　埼玉県　　5.　静岡県　　6.　その他（　　）

あなたの卒業後の進路について教えてください。

問3 **現在のところ興味のある高校卒業後の進路をすべて教えてください。（あてはまるものすべてに○）**

1.　四（六）年制大学　　2.　短期大学　　3.　専門学校
4.　就職　　5.　その他（　　）

問4 **現在のところ、あなたの興味のある分野について、以下の14の選択肢の中から、1番目から3番目までの番号を記載してください。**

1.　文学・歴史・心理　　2.　経済・経営・ビジネス　　3.　法学・政治
4.　外国語・国際関係　　5.　社会・観光・社会福祉　　6.　教育・保育
7.　理学・工学・情報　　8.　農・畜産・水産　　9.　医学・歯学・薬学
10.　医療　　11.　栄養・家政　　12.　スポーツ・健康科学
13.　芸術　　14.　その他（　　）

1番目（　　）	2番目（　　）	3番目（　　）

問5 **あなたは進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。**
以下の20の選択肢の中から、1番目から3番目までの番号を記載してください。

1.　学びたい学部・学科・コースがある　　2.　専門分野を深く学べる
3.　教育方針やカリキュラムが魅力的　　4.　自分の興味や可能性が広げられる
5.　教育内容のレベルが高い　　6.　国際的センスが身につく
7.　クラブ・サークル活動が盛ん　　8.　学生生活が楽しめる
9.　学力レベルが自分に合っている　　10.　入試方法が自分に合っている
11.　伝統や実績がある　　12.　校風や雰囲気がよい
13.　有名である　　14.　学習設備や環境が整っている
15.　自宅から通える　　16.　学費が安い
17.　資格取得に有利である　　18.　就職に有利である
19.　将来の選択肢が増える　　20.　卒業後に社会で活躍できる

1番目（　　）	2番目（　　）	3番目（　　）

問６からは左の概要を読んだ上でお答えください。

問6 **あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に興味・関心をもちましたか。（あてはまるもの1つに○）**

1. 興味・関心をもった
2. やや興味・関心をもった

→ 1～2の方は **問7** **問8** にお答えください。

3. どちらともいえない
4. 興味・関心をもてなかった

→ 3～4の方は **問10** にお答えください。

問7 ※「問6」で「1. 興味・関心をもった」「2. やや興味・関心をもった」と答えた人のみ回答してください。

あなたが桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に興味・関心をもった理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 様々な国や地域について深く学びたいから
2. もっと語学力を向上させたいから
3. 留学や異文化交流に興味をもっているから
4. 将来、グローバルな規模で活躍できる人材になりたいから
5. 桜美林大学に興味をもっているから
6. 通学が便利であるから

問8 ※「問6」で「1. 興味・関心をもった」「2. やや興味・関心をもった」と答えた人のみ回答してください。

あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 受験したい
2. 受験を検討したい

→ 1～2の方は **問9** にお答えください。

3. どちらともいえない
4. 受験しない

→ 3～4の方は **問10** にお答えください。

問9 ※「問8」で「1. 受験したい」「2. 受験を検討したい」と答えた人のみ回答してください。

あなたは桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」 を受験し合格した場合、進学したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 進学したい
2. 併願大学の結果によっては進学したい
3. 進学しない
4. まだわからない

問10 ※「問6」で「3. どちらともいえない」「4. 興味・関心をもてなかった」、「問8」で「3. どちらともいえない」「4. 受験しない」を答えた人のみ回答してください。

あなたが桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に興味・関心をもてない、または受験に前向きになれない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 構想内容に魅力を感じないから。
2. 興味・関心のある学問分野がないから。
3. 興味・関心のある学問分野はあるが、他大学への進学を検討したいから。
4. 新設学科に進学するのは不安だから。
5. 自宅からの通学が不便そうだから。
6. もっと詳しい情報を得た上で検討したいから。
7. 大学進学以外の進路を検討しているから。
8. その他（　　）

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

おうびりんだいがく

桜美林大学

グローバル・コミュニケーション学群（仮称）
グローバル・コミュニケーション学類（仮称）

設置構想についての企業・団体向けアンケート調査

２０１６（平成２８）年４月に、桜美林大学が「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の新設を構想しています。

桜美林大学では、このアンケート調査を通して企業・団体の皆様からご意見をいただくことで、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、回答いただいた皆様より得られた情報は、桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用させていただき、個人の情報として扱うことは一切ございません。

以上の趣旨を踏まえ、御多忙の折に大変恐れ入りますが、アンケート調査に御協力下さいますよう、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は桜美林大学から委託された第三者機関
（株式会社紀伊國屋書店及び株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

質問数：　11　問　（所要時間は5～10分程度です）

2016年4月、桜美林大学で開設予定。グローバルリーダーシップを身につける。

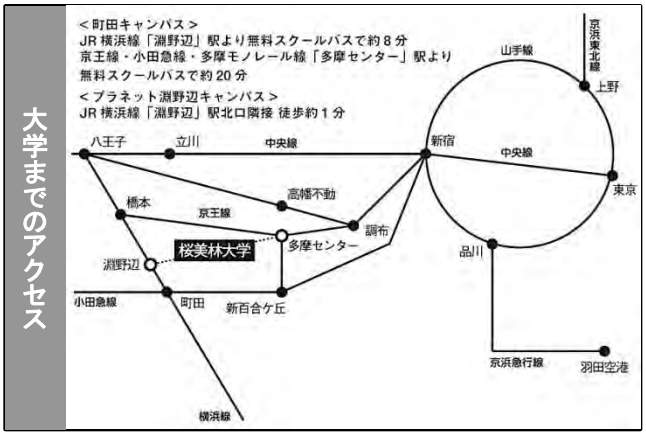
グローバル・コミュニケーション学群 グローバル・コミュニケーション学類（仮称）

設置構想中

概要

■開設時期：2016年4月（予定）
■名　　称：グローバル・コミュニケーション学群 グローバル・コミュニケーション学類（仮称）
■入学定員：250人（収容定員1,000人）
■場　　所：東京都町田市常盤町3758

大学までのアクセス



養成する人材像

語学に長け、コミュニケーション能力が高く、分析や創造を伴う思考力と、問題解決に向けた計画力や実行力を有し、国や文化を越えたグローバルな協働のために、リーダーシップを発揮できる人材を養成する。

教育の特徴

◆グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称） 4つのコンセプト

語学

基礎から始め、書く、話す、読む、書く等のスキルに応じた語学力向上とともに、コミュニケーションスキルも修得する。

リーダーシップ

知識、技能、教養を高めた後、留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、グローバルに協働できるリーダーシップを養う。

グローバル・スタディーズ

「日本の文化や社会の理解」と「グローバル社会に向けた共生と発展」について、言語や文化が異なる多くの留学生達とともに英語や中国語で学ぶ。

留学

全員が2年次後期または3年次前期から半年間、学修テーマにあった米国・中国をはじめとする世界各地の留学提携校へ留学する。

◆グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称） での4年間の学習計画

1年次	2年次		3年次	4年次
【実践的な語学教育】 【教養】	【実践的な語学教育】 【日本の文化・社会への理解】	【海外留学】	【グローバル社会の発展に関するテーマ】 【インターンシップ】 【グローバル・リーダーシップ教育】	

・海外留学は3年次前期を選ぶこともできます。
・授業は、日本語、英語、中国語で行います。

卒業後の進路

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類(仮称)卒業後は、以下の進路が予想されます。

1. グローバル企業、国際機関、外資系企業、商社
2. 金融業、製造業、サービス業
3. 教育機関、公務員

上記以外にも語学やコミュニケーション力、リーダーシップが発揮できる分野での活躍が期待されます。

注：上記の内容は、設置準備段階の構想であり、変更になる場合があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお訊ねいたします。

問1 貴社・貴団体の業種をお答えください。（あてはまるもの１つに○）

１．　農林漁業	２．　鉱業	３．　建設業
４．　製造業	５．　電気・ガス・熱・水道業	６．　情報通信業
７．　運輸業	８．　卸売・小売業	９．　金融・保険業
１０．　不動産業	１１．　飲食・宿泊業	１２．　医療・福祉
１３．　教育・学習支援業	１４．　複合サービス事業	１５．　公務・その他（　　）

問2 貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの１つに○）

１．　東京都	２．　神奈川県	３．　埼玉県
４．　千葉県	５．　栃木県	６．　群馬県
７．　静岡県	８．　その他（　　）	

問3 貴社・貴団体の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの１つに○）

１．　５０人以下	２．　５１～１００人	３．　１０１～５００人
４．　５０１～1，０００人	５．　1，００１人以上	

問4 新卒生を採用する際に、求める能力・体験等をお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

１．　コミュニケーション能力	２．　基礎的な学力	３．　専攻学問の専門的な知識
４．　語学力	５．　考え抜く力	６．　前に踏み出す力
７．　目的達成志向	８．　適応力	９．　インターンシップ経験
１０．　ボランティア経験	１１．　忍耐力	１２．　理解力
１３．　論理力	１４．　取得資格・免許	１５．　その他（　　）

問5 貴社・貴団体のグローバルな事業展開についてお答えください。（あてはまるもの１つに○）

１．　グローバルな事業展開について、すでに展開している
２．　グローバルな事業展開について、今はないが今後展開する可能性はある
３．　グローバルな事業展開について、全くない
４．　よくわからない

以下は２ページの「桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）の概要」をご覧の上、お答えください。

※以下の質問より、「グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類（仮称）」は、「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に省略し説明します。

問6 桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」が育成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの１つに○）

１．　ニーズは極めて高い
２．　ニーズはある程度高い
３．　ニーズは高くない
４．　どちらとも言えない

裏面にも質問がございます。

問7 桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」の特色について評価できる点をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1．　実践的な語学教育で語学力を向上させる。
2．　語学力とともに、コミュニケーションスキルを修得できる。
3．　留学生とのグループプロジェクトや海外におけるインターンシップを通して、
　　グローバルに協働できるリーダーシップを養う。
4．　文化が異なる多くの留学生達とともに、授業を英語や中国語で学ぶ。
5．　入学者全員が海外の留学提携校へ留学する。
6．　その他（　　）

問8 貴社・貴団体が桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に期待すること、求めることは何かお聞かせください。（あてはまるもの１つに○）

1．専門的知識・技術に係る資質・素養を備えている人材を養成すること
2．幅広い知識・教養を身につけている人材を養成すること
3．何事も積極的に取り組む行動力がある人材を養成すること
4．礼儀作法を知り、常識的振る舞いができる人材を養成すること
5．周囲とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材を養成すること
6．様々な資格・免許を有している人材を養成すること
7．その他（　　）

問9 貴社・貴団体では、桜美林大学「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」で学び卒業した学生を、将来採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つに○）

1．採用したい
2．採用を検討したい
} → 1または2の方は **問10** にお答えください。
3．どちらとも言えない
4．採用したいと思わない

※「問９」で「１．採用したい」「２．採用を検討したい」と答えた方のみ回答してください。

問10 その場合、採用可能と思われる人数をご記入ください。（枠内に人数を記入）

□ 人

問11 桜美林大学が構想中の「グローバル・コミュニケーション学群（仮称）」に対して、ご意見・ご要望などありましたらご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

日本私立学校振興・共済事業団　私立大学等入学志願動向　平成26年度

区分	集計学部数	入学定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員充足率 E/A
医学	29	3,668	110,427	102,365	7,799	3,736	30.1	7.6%	47.9%	101.9%
歯学	17	2,063	8,029	7,394	3,424	1,755	3.9	46.3%	51.3%	85.1%
薬学	57	11,484	121,877	115,936	29,455	12,225	10.6	25.4%	41.5%	106.5%
保健系	175	27,033	164,659	158,154	56,334	29,156	6.1	35.6%	51.8%	107.9%
理・工学系	146	59,281	651,819	627,653	215,453	64,437	11.0	34.3%	29.9%	108.7%
農学系	17	6,960	82,167	78,620	21,842	7,789	11.8	27.8%	35.7%	111.9%
人文科学系	238	70,257	511,565	494,487	194,269	73,365	7.3	39.3%	37.8%	104.4%
社会科学系	505	165,517	1,146,575	1,099,861	419,943	168,524	6.9	38.2%	40.1%	101.8%
家政学	72	15,413	81,097	78,834	30,962	15,707	5.3	39.3%	50.7%	101.9%
教育学	80	14,400	104,780	100,940	32,076	15,453	7.3	31.8%	48.2%	107.3%
体育学	10	4,582	17,241	16,821	6,680	5,325	3.8	39.7%	79.7%	116.2%
芸術系	60	14,909	40,643	39,880	23,231	14,242	2.7	58.3%	61.3%	95.5%
その他	253	64,684	423,550	408,899	154,276	65,917	6.5	37.7%	42.7%	101.9%
（国際学部）	10	2,185	11,336			2,286	5.2			104.6%
（国際教養学部）	9	1,959	13,029			2,039	6.7			104.1%
（国際関係学部）	7	1,945	10,366			2,125	5.3			109.3%
（国際コミュニケーション学部）	6	975	5,679			971	5.8			99.6%
合計	1,659	460,251	3,464,429	3,329,844	1,195,744	477,631	7.5	35.9%	39.9%	103.8%

＊　日本私立学校振興・共済事業団 「平成26年度　私立大学・短期大学等入学志願動向」より

日本私立学校振興・共済事業団　私立大学等入学志願の過去5年間の動向

年度	区分	集計学部数	入学定員 A	志願者 B	入学者 E	志願倍率 B/A	入学定員充足率 E/A
平成22年度	（国際学部）	9	2,240	10,701	2,279	4.8	101.7%
	（国際教養学部）	8	1,735	9,802	1,802	5.6	103.9%
	（国際関係学部）	7	1,912	10,374	2,167	5.4	113.3%
	（国際コミュニケーション学部）	8	1,510	4,887	1,441	3.2	95.4%
	上記4学部合計	32	7,397	35,764	7,689	4.8	103.9%
平成23年度	（国際学部）	9	2,240	12,371	2,336	5.5	104.3%
	（国際教養学部）	8	1,735	10,749	1,922	6.2	110.8%
	（国際関係学部）	7	1,912	10,639	2,133	5.6	111.6%
	（国際コミュニケーション学部）	7	1,400	5,125	1,380	3.7	98.6%
	上記4学部合計	31	7,287	38,884	7,771	5.3	106.6%
平成24年度	（国際学部）	9	2,130	10,777	2,273	5.1	106.7%
	（国際教養学部）	9	1,973	10,598	2,045	5.4	103.6%
	（国際関係学部）	7	1,942	11,311	2,067	5.8	106.4%
	（国際コミュニケーション学部）	7	1,200	5,906	1,195	4.9	99.6%
	上記4学部合計	32	7,245	38,592	7,580	5.3	104.6%
平成25年度	（国際学部）	9	2,100	11,092	2,286	5.3	108.9%
	（国際教養学部）	8	1,881	10,959	1,964	5.8	104.4%
	（国際関係学部）	7	1,945	9,886	2,111	5.1	108.5%
	（国際コミュニケーション学部）	7	1,075	5,285	1,116	4.9	103.8%
	上記4学部合計	31	7,001	37,222	7,477	5.3	106.8%
平成26年度	（国際学部）	10	2,185	11,336	2,286	5.2	104.6%
	（国際教養学部）	9	1,959	13,029	2,039	6.7	104.1%
	（国際関係学部）	7	1,945	10,366	2,125	5.3	109.3%
	（国際コミュニケーション学部）	6	975	5,679	971	5.8	99.6%
	上記4学部合計	32	7,064	40,410	7,421	5.7	105.1%

＊　日本私立学校振興・共済事業団 「平成22年度～平成26年度　私立大学・短期大学等入学志願動向」より

近隣にある私立大学の同類系学部における募集状況

大学名	学部	学科	入学定員	志願者数			合格者数			倍率			住所
				24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	
亜細亜	国際関係	多文化コミュニケーション	110	1,069	1,054	1,038	265	301	266	4.0	3.5	3.9	東京都武蔵野市
学習院女子	国際文化交流	国際コミュニケーション	170	1,502	1,280	1,240	384	347	391	3.9	3.7	3.2	東京都新宿区
共立女子	国際	国際	250	898	832	855	364	340	398	2.5	2.4	2.1	東京都千代田区
創価	国際教養	国際教養	80	—	—	1,054	—	—	75			14.1	東京都八王子市
拓殖	国際	国際	300	1,039	840	1,026	345	238	337	3.0	3.5	3.0	東京都八王子市
東洋学園	グローバル・コミュニケーション	グローバル・コミュニケーション	160	—	119	179	—	61	127		2.0	1.4	東京都文京区
法政	グローバル教養	グローバル教養	50	489	366	769	37	32	138	13.2	11.4	5.6	東京都千代田区
武蔵野	グローバル・コミュニケーション	グローバル・コミュニケーション	220	1,130	1,458	1,370	172	204	225	6.6	7.1	6.1	東京都江東区
明星	人文	国際コミュニケーション	100	252	277	226	108	140	149	2.3	2.0	1.5	東京都日野市
立教	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	115	3,937	3,914	3,540	432	454	390	9.1	8.6	9.1	東京都豊島区
早稲田	国際教養	国際教養	600	4,036	4,293	3,714	1,014	826	847	4.0	5.2	4.4	東京都新宿区
神奈川	外国語	国際文化交流	100	907	935	919	273	253	277	3.3	3.7	3.3	神奈川県横浜市
多摩	グローバルスタティーズ	グローバルスタティーズ	150	481	296	301	327	263	264	1.5	1.1	1.1	神奈川県藤沢市
東海	教養	国際	80	394	455	294	162	89	106	2.4	5.1	2.8	神奈川県平塚市
東洋英和女学院	国際社会	国際コミュニケーション	120	759	579	581	418	375	375	1.8	1.5	1.5	神奈川県横浜市
フェリス女学院	国際交流	国際交流	194	1,196	1,156	1,037	522	496	585	2.3	2.3	1.8	神奈川県横浜市
明治学院	国際	国際	220	2,623	2,871	3,112	855	901	886	3.1	3.2	3.5	神奈川県横浜市
		合計	3,019	20,712	20,725	21,255	5,678	5,320	5,836	3.6	3.9	3.6	

＊データ：河合塾『ガイドライン平成26年度　6月号』を参照　（一般入試のみ。ただし、センター試験利用入試を含む）

資料４

近隣にある私立大学の同類系学部における定員充足状況

大学名	学部	学科	住所	入学定員	収容定員	学生数	充足率	公表データ	備考
亜細亜	国際関係	多文化コミュニケーション	東京都武蔵野市	110	330	389	117.9%	平成26年5月時点	平成24年4月開設
学習院女子	国際文化交流	国際コミュニケーション	東京都新宿区	170	700	812	116.0%	平成26年5月時点	
共立女子	国際	国際	東京都千代田区	250	1,000	1,160	116.0%	平成26年5月時点	
創価	国際教養	国際教養	東京都八王子市	80	80	84	105.0%	平成26年5月時点	平成26年4月開設
拓殖	国際	国際	東京都八王子市	300	1,200	1,418	118.2%	平成26年5月時点	
東洋学園	グローバル・コミュニケーション	グローバル・コミュニケーション	東京都文京区	160	320	136	42.5%	平成26年5月時点	平成25年4月開設
法政	グローバル教養	グローバル教養	東京都千代田区	50	232	248	106.9%	平成26年5月時点	
武蔵野	グローバル・コミュニケーション	グローバル・コミュニケーション	東京都江東区	220	926	916	98.9%	平成26年5月時点	
明星	人文	国際コミュニケーション	東京都日野市	100	400	452	113.0%	平成26年5月時点	
立教	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	東京都豊島区	115	460	536	116.5%	平成26年10月時点	
早稲田	国際教養	国際教養	東京都新宿区	600	2,400	2,906	121.1%	平成26年5月時点	
神奈川	外国語	国際文化交流	神奈川県横浜市	100	400	438	109.5%	平成26年5月時点	
多摩	グローバルスタティーズ	グローバルスタティーズ	神奈川県藤沢市	150	600	559	93.2%	平成26年5月時点	
東海	教養	国際	神奈川県平塚市	80	320	378	118.1%	平成26年5月時点	
東洋英和女学院	国際社会	国際コミュニケーション	神奈川県横浜市	120	480	611	127.3%	平成26年5月時点	
フェリス女学院	国際交流	国際交流	神奈川県横浜市	194	800	944	118.0%	平成26年5月時点	
明治学院	国際	国際	神奈川県横浜市	220	880	1,109	126.0%	平成26年5月時点	
				3,019	11,528	13,096	113.6%		

＊各大学HPより参照

資料５

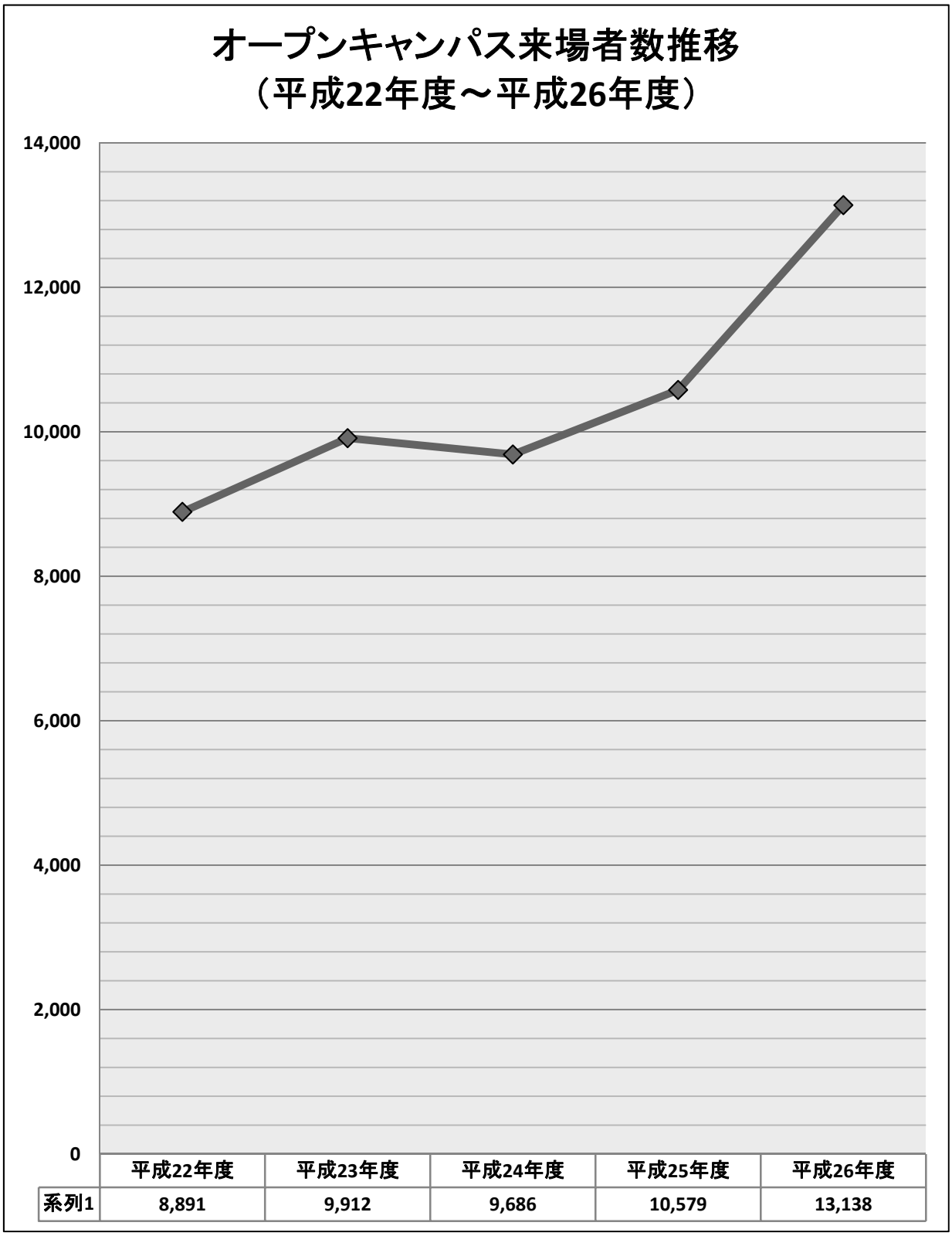
桜美林大学 高大連携協定校一覧

平成26年8月現在
（オブザーバー校含む、順不同）

	学　校　名	
1	神奈川県立	相原高等学校
2	神奈川県立	生田東高等学校
3	神奈川県立	伊志田高等学校
4	神奈川県立	相模原総合高等学校
5	神奈川県立	上溝高等学校
6	神奈川県立	上溝南高等学校
7	神奈川県立	霧が丘高等学校
8	神奈川県立	麻生総合高等学校
9	神奈川県立	相模原中等教育学校
10	神奈川県立	相模田名高等学校
11	神奈川県立	瀬谷西高等学校
12	神奈川県立	橋本高等学校
13	神奈川県立	弥栄高等学校
14	東京都私立	桜美林高等学校
15	神奈川県立	大和南高等学校
16	神奈川県立	横浜清陵総合高等学校
17	神奈川県立	横浜桜陽高等学校
18	神奈川県立	座間総合高等学校
19	神奈川県立	有馬高等学校
20	神奈川県立	瀬谷高等学校
21	神奈川県立	大和東高等学校
22	東京都立	小川高等学校
23	東京都立	若葉総合高等学校
24	東京都立	永山高等学校
25	神奈川県私立	湘南学院高等学校
26	神奈川県立	湘南台高等学校
27	東京都立	町田工業高等学校
28	東京都立	上水高等学校
29	東京都立	翔陽高等学校
30	東京都立	片倉高等学校
31	東京都立	桜町高等学校
32	神奈川県立	金沢総合高等学校
33	神奈川県立	城山高等学校
34	神奈川県立	藤沢西高等学校
35	東京都立	山崎高等学校

	学　校　名	
36	神奈川県立	深沢高等学校
37	神奈川県立	上鶴間高等学校
38	神奈川県立	綾瀬高等学校
39	東京都立	府中東高等学校
40	東京都立	青梅総合高等学校
41	神奈川県立	城郷高等学校
42	神奈川県立	白山高等学校
43	神奈川県私立	麻布大学附属渕野辺高等学校
44	神奈川県立	菅高等学校
45	神奈川県立	横浜緑園総合高等学校
46	神奈川県私立	横浜創学館高等学校
47	神奈川県立	藤沢清流高等学校
48	神奈川県立	相模原青陵高等学校
49	神奈川県立	藤沢総合高等学校
50	神奈川県立	麻生高等学校
51	東京都立	町田総合高等学校
52	神奈川県私立	星槎学園中高等部　北斗校
53	神奈川県私立	橘学苑高等学校
54	埼玉県私立	東野高等学校
55	神奈川県私立	平塚学園高等学校
56	神奈川県私立	横浜隼人高等学校
57	神奈川県立	大和西高等学校
58	神奈川県立	横浜立野高等学校
59	神奈川県私立	横浜創英高等学校
60	神奈川県立	厚木東高等学校
61	神奈川県私立	光明学園相模原高等学校
62	神奈川県私立	柏木学園高等学校
63	東京都立	美原高等学校
64	神奈川県私立	クラーク記念国際高等学校
65	東京都立	調布南高等学校
66	神奈川県立	旭高等学校
67	東京都私立	八王子実践高等学校

資料７


オープンキャンパス来場者数推移
（平成22年度～平成26年度）
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
平成22年度
平成23年度
平成24年度
平成25年度
平成26年度
系列1
8,891
9,912
9,686
10,579
13,138

日本企業の海外子会社・関連会社数の推移（平成15年度～平成24年度）

全国

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	増加率（H15→H24）
23,402	26,858	28,315	30,437	31,633	33,009	33,521	34,901	37,585	40,173	171.7%

（東京都）

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	増加率（H15→H24）
13,004	15,174	15,990	17,576	18,047	18,880	18,920	19,826	21,033	22,275	171.3%

（神奈川県）

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	増加率（H15→H24）
792	951	901	853	930	963	1,141	1,370	1,457	1,505	190.0%

＊経済産業省「企業活動基本調査」（平成15年度～平成24年度結果）を参照。

＜経済産業省「企業活動基本調査」の対象企業＞

日本標準産業分類に掲げる大分類Ｃ－鉱業、採石業、砂利採取業、大分類Ｅ－製造業、大分類Ｆ－電気・ガス・熱供給・水道業（中分類 35－熱供給業及び中分類 36－水道業を除く。）、大分類Ｇ－情報通信業、大分類 I－卸売業、小売業、大分類 J－金融業、保険業、大分類Ｋ－不動産業、物品賃貸業のうち中分類 70－物品賃貸業、大分類Ｌ－学術研究、専門・技術サービス業、大分類Ｍ－宿泊業、飲食サービス業、大分類Ｎ－生活関連サービス業、娯楽業、大分類Ｏ－教育、学習支援業及び大分類Ｒ－サービス業（他に分類されないもの）に属する事業所を有する企業のうち、従業者 50 人以上かつ資本金額又は出資金額3,000万円以上の会社を調査対象としている。

日本国内の外資系企業数の推移（平成15年度～平成24年度）

企業の母国籍	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	増加率（H15年度→H24年度
ヨーロッパ系企業	860	960	1,033	1,135	1,226	1,175	1,209	1,281	1,400	1,313	152.7%
アメリカ系企業	773	820	851	944	943	849	845	861	887	825	106.7%
アジア系企業	298	324	388	447	612	581	581	640	674	639	214.4%
うち、中国系企業	114	124	145	162	205	204	212	222	238	217	190.4%
その他	107	126	133	139	167	158	161	183	233	199	186.0%
合計	2,038	2,230	2,405	2,665	2,948	2,763	2,796	2,965	3,194	2,976	146.0%

＊経済産業省「外資系企業動向調査」（平成15年度～平成24年度結果）を参照。

＜経済産業省「外資系企業動向調査」の対象企業＞

⑴ 外国投資家が株式又は持分の3分の1超を所有している企業
⑵ 外国投資家が株式又は持分の3分の1超を所有している国内法人が出資する企業であって、外国投資家の直接出資比率及び間接出資比率の合計が、当該企業の株式又は持分の3分の1超となる企業
⑶ 上記⑴、⑵いずれの場合も、外国側筆頭出資者の出資比率が10％以上である企業

（注1）平成23年調査より、持株会社を経由した間接出資のみならず事業会社を含むあらゆる国内法人からの間接出資も対象としている。
（注2）外国投資家とは、本調査においては非居住者である個人、外国法令に基づいて設立された法人その他の団体又は外国に本社を有する法人その他の団体をいう。
（注3）直接出資比率とは、資本金又は出資金総額に占める外国投資家の株式又は持分の比率。また、間接出資比率とは、外国投資家の国内法人への出資比率に国内法人からの当該企業への出資比率を乗じたものである。